

ヨハネ1:1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。  
ヨハネ1:2 この言は、初めに神と共にあった。  
ヨハネ1:3 万物に言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。  
ヨハネ1:4 言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。  
ヨハネ1:5 光は暗やみの中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。  
ヨハネ1:6 神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。  
ヨハネ1:7 彼は証しをするために来た。光について証しをするため、また、すべての人が彼によって信じるようになるためである。  
ヨハネ1:8 彼は光ではなく、光について証しをするために来た。  
ヨハネ1:9 その光は、まことに光で、世に来てすべての人を照らすのである。  
ヨハネ1:10 言は世にあった。世は言によって成ったが、世は言を認めなかった。  
ヨハネ1:11 言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。  
ヨハネ1:12 しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。  
ヨハネ1:13 この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生れたのである。  
ヨハネ1:14 言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵と真理とに満ちていた。  
ヨハネ1:15 ヨハネは、この方について証しをし、声を張り上げて言った。"わたしの後から来られる方は、わたしより優れている。わたしよりも先におられたからである"とわたしが言ったのは、この方のことである。"  
ヨハネ1:16 わたしたちは皆、この方の満ちあふれる豊かさの中から、恵の上に、更に恵を受けた。  
ヨハネ1:17 律法はモーセを通して与えられたが、恵みと真理はイエス・キリストを通して現れたからである。  
ヨハネ1:18 いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである。  
ヨハネ1:19 さて、ヨハネの証しはこうである。エルサレムのユダヤ人たちが、祭司やレビ人たちをヨハネのもとへ遣わして、"あなたは、どなたですか"と質問させたとき、  
ヨハネ1:20 彼は高原して隠さず、"わたしはメシアではない"と言い表した。  
ヨハネ1:21 彼らがまた、"では何ですか。あなたはエリヤですか"と尋ねると、ヨハネは、"違う"と言った。更に、"あなたは、あの預言者なのですか"と尋ねると、"そうではない"と答えた。  
ヨハネ1:22 そこで、彼らは言った。"それではいったい、だれなのです。わたしたちを遣わした人々に返事をしなければなりません。あなたは自分を何だと言うのですか。"  
ヨハネ1:23 ヨハネは、預言者イザヤの言葉を用いて言った。"わたしは荒れ野で叫ぶ声である。'主の道をまっすぐにせよ'と。"  
ヨハネ1:24 遣わされた人たちはファリサイ派に属していた。  
ヨハネ1:25 彼らがヨハネに尋ねて、"あなたはメシアでも、エリアでも、またあの預言者でもないのに、なぜ、洗礼を授けるのですか"と言うと、  
ヨハネ1:26 ヨハネは答えた。"わたしは水で洗礼を授けるが、あなたがたの中には、あなたがたの知らない方がおられる。  
ヨハネ1:27 その人はわたしの後から来られる方で、わたしはその履物のひもを解く資格もない。"  
ヨハネ1:28 これは、ヨハネが洗礼を授けていたヨルダン川の向こう側、ベタニアでの出来事であった。  
ヨハネ1:29 その翌日、ヨハネは、自分の方へイエスが来られるのを見て言った。"見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。  
ヨハネ1:30 'わたしの後から一人の人が来られる。その方はわたしにまさる。わたしよりも先におられたからである'とわたしが言ったのは、この方のことである。  
ヨハネ1:31 わたしはこの方を知らなかった。しかし、この方がイスラエルにあらわれるために、わたしは、水で洗礼を授けに来た。"  
ヨハネ1:32 そしてヨハネは証した。"わたしは、'霊'が鳩のように天から降って、この方の上にとどまるのを見た。  
ヨハネ1:33 わたしはこの方を知らなかった。しかし、水で洗礼を授けるためにわたしをお遣わしになった方が、'霊'が降って、ある人にとどまるのを見たら、その人が、聖霊によって洗礼を授ける人である'とわたしに言われた。  
ヨハネ1:34 わたしはそれを見た。だから、この方こそ神の子であると証したのである。"  
ヨハネ1:35 その翌日、また、ヨハネは二人の弟子と一緒にいた。  
ヨハネ1:36 そして、歩いておられるイエスを見つめて、"見よ、神の小羊だ"と言った。

ヨハネ1:37 二人の弟子はそれを聞いて、イエスに従った。

ヨハネ1:38 イエスは振り返り、彼らが従って来るのを見て、“何を求めているのか”と言われた。彼らが、“ラビ——先生”という意味——どこに泊まっておられるのですか”と言うと、

ヨハネ1:39 イエスは、“来なさい。そうすれば分かる”と言われた。そこで、彼らについて行って、どこにイエスが泊まっておられるかを見た。そしてその日は、イエスのもとに泊まった。午後四時ごろのことである。

ヨハネ1:40 ヨハネの言葉を聞いて、イエスに従った二人のうちの一は、シモン・ペトロの兄弟アンデレであった。

ヨハネ1:41 彼は、まず自分の兄弟シモンに会って、“わたしたちはメシア——油を注がれた者”という意味——に出会った”と言った。

ヨハネ1:42 そして、シモンをイエスのところに連れて行った。イエスは彼を見つめて、“あなたはヨハネの子シモンであるが、ケファ——岩”という意味——と呼ぶことにする”と言われた。

ヨハネ1:43 その翌日、イエスは、ガリラヤへ行こうとしたときに、フィリポに出会って、“わたしに従いなさい”と言われた。

ヨハネ1:44 フィリポは、アンデレとペトロの町、ベトサイダの出身であった。

ヨハネ1:45 フィリポはナタナエルに出会って言った。“わたしたちは、モーセが律法に記し、預言者たちも書いている方に出会った。それはナザレの人で、ヨセフの子イエスだ。”

ヨハネ1:46 するとナタナエルが、“ナザレから何が良いものが出るだろうか”と言ったので、フィリポは、“来て、見なさい”と言った。

ヨハネ1:47 イエスは、ナタナエルが御自分の方へ来るのを見て、彼らのことをこう言われた。“見なさい。まことのイスラエル人だ。この人には偽りが無い。”

ヨハネ1:48 ナタナエルが、“どうしてわたしを知っておられるのですか”と言うと、イエスは答えて、“わたしは、あなたがフィリポから話しかけられる前に、いちじくの木の下にいるのを見た”と言われた。

ヨハネ1:49 ナタナエルは答えた。“ラビ、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です。”

ヨハネ1:50 イエスは答えて言われた。“いちじくの木の下にあなたがいるのを見たと言ったので、信じるのか。もっと偉大なことをあなたは見ることになる。”

ヨハネ1:51 更に言われた。“はっきり言うておく。天が開け、神の天使たちが人の子の上に昇り降りするのを、あなたがたは見ることになる。”

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ2:1 三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があつて、イエスの母がそこにいた。

ヨハネ2:2 イエスも、その弟子たちも婚礼に招かれた。

ヨハネ2:3 ぶどう酒が足りなくなったので、母がイエスに、“ぶどう酒がなくなりました”と言った。

ヨハネ2:4 イエスは母に言われた。“婦人よ、わたしとどんなかわりがあるのです。わたしの時はまだ来ていません。”

ヨハネ2:5 しかし、母は召し使いたちに、“この人が何が言いつけたら、そのとおりにしてください”と言った。

ヨハネ2:6 そこには、ユダヤ人が清めに用いる石の水がめが六つ置いてあつた。いずれも二ないし三メトレテス入りのものである。

ヨハネ2:7 イエスが、“水がめに水をいっぱい入れなさい”と言われると、召し使いたちは、かめの縁まで水を満たした。

ヨハネ2:8 イエスは、“さあ、それをくんで宴会の世話役のところへ持って行きなさい”と言われた。召し使いたちは運んで行った。

ヨハネ2:9 世話役はぶどう酒に変わった水の味見をした。このぶどう酒がどこから来たのか、水をくんだ召し使いたちは知っていたが、世話役は知らなかったので、花婿を呼んで、

ヨハネ2:10 言った。“だれでも初めに良いぶどう酒を出し、酔いがまわったところに劣ったものを出すものですが、あなたは酔いぶどう酒を今まで取って置かれました。”

ヨハネ2:11 イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行つて、その栄光を現された。それで、でしたちはイエスを信じた。

ヨハネ2:12 この後、イエスは母、兄弟、弟子たちとカファルナウムに下つて行き、そこに幾日か滞在された。

ヨハネ2:13 ユダヤ人の過越祭が近づいたので、イエスはエルサレムへ上つて行かれた。

ヨハネ2:14 そして、神殿の境内で牛や羊や鳩を売っている者たちと、座って両替をしている者たちを御覧になった。

ヨハネ2:15 イエスは縄で鞭を作り、羊や牛をすべて境内から追い出し、両替人の適をまき散らし、その第を倒し、

ヨハネ2:16 鳩を売る者たちに言われた。“このような物はここから運び出せ。わたしの父の家を商売の家としてはならない。”

ヨハネ2:17 弟子たちは、“あなたの家を思う熱意がわたしを食い尽くす”と書いてあるのを思い出した。

ヨハネ2:18 ユダヤ人たちはイエスに、“あなたは、こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せるつもりか”と言った。

ヨハネ2:19 イエスは答えて言われた。“この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。”

ヨハネ2:20 それでユダヤ人たちは、“この神殿は建てるのに四十八年もかかったのに、あなたは三日で建て治すのか”と言った。

ヨハネ2:21 イエスの言われる神殿とは、御自分の体のことだったのである。

ヨハネ2:22 イエスが死者の中から復活されたとき、弟子たちは、イエスがこう言われたのを思い出し、聖書とイエスの語られた言葉とを信じた。

ヨハネ2:23 イエスは逾越祭の間エルサレムにおられたが、そのなさったしるしを見て、多くの人がイエスの名を信じた。

ヨハネ2:24 しかし、イエス御自身は彼らを信用されなかった。それは、すべての人のことを知っておられ、

ヨハネ2:25 人間についてだれからも証ししてもらわなければならないからである。イエスは、何か人間の心の中にあるかをよく知っておられたのである。

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ3:1 さて、ファリサイ派に属する、ニコデをという人がいた。ユダヤ人たちの議員であった。

ヨハネ3:2 ある夜、イエスのもとに来て言った。“ラビ、わたしどもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神が共におられるのでなければ、あなたのなさるようなしるしを、だれも行うことはできないからです。”

ヨハネ3:3 イエスは答えて言われた。“はっきり言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。”

ヨハネ3:4 ニコデモは言った。“年をとった物が、どうして生まれることができますよう。もう一度母親の胎内に入って生まれることができるでしょうか。”

ヨハネ3:5 イエスはお答えになった。“はっきり言うておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。

ヨハネ3:6 肉から生まれたものは肉である。霊から生れたものは霊である。

ヨハネ3:7 ‘あなたがたは新たに生まれねばならない’とあなたに言ったことに、驚いてはならない。

ヨハネ3:8 風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生れた者は皆そのとおりである。”

ヨハネ3:9 するとニコデモは、“どうして、そんなことがありえましょうか”と言った。

ヨハネ3:10 イエスは答えて言われた。“あなたはイスラエルの教師でありながら、こんなことが分からないのか。

ヨハネ3:11 はっきり言うておく。わたしたちは知っていることを語り、見たことを証しているのに、あなたがたはわたしたちの証しを受け入れない。

ヨハネ3:12 わたしが地上のことを話しても信じないとすれば、天上のことを話したところで、どうして信じるだろう。

ヨハネ3:13 天から降って来た者、すなわち人の子のほかには、天に上った者はだれもない。

ヨハネ3:14 そして、モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。

ヨハネ3:15 それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである。

ヨハネ3:16 神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が独りも滅びないで、永遠の命を得るためである。

ヨハネ3:17 神が御子を世に遣わされたのは、世を砂漠ためではなく、御子によって世が救われるためである。

ヨハネ3:18 御子を信じる者は裁かれない。信じない者は既に裁かれている。神の独り子の名を信じていないからである。

ヨハネ3:19 光が世に来たのに、人々はその行いが悪いので、光よりも闇の方を好んだ。それが、もう裁きになっている。

ヨハネ3:20 悪を行う者は皆、光を憎み、その行いが明るみに出されるのを恐れて、光の方に来ないからである。

ヨハネ3:21 しかし、真理を行う者は光の方に来る。その行いが神に導かれてなされたということが、明らかになるために。”

ヨハネ3:22 その後、イエスは弟子たちがユダヤ地方に言って、そこに一緒に滞在し、洗礼を授けておられた。

ヨハネ3:23 他方、ヨハネは、サリムの近くのアイノンで洗礼を授けていた。そこは水が豊かであったからである。人々は来て、洗礼を受けていた。

ヨハネ3:24 ヨハネはまだ投獄されていなかったのである。

ヨハネ3:25 ところがヨハネの弟子たちと、あるユダヤ人との間で、清めのことで論争が起こった。

ヨハネ3:26 彼らはヨハネのもとに来て言った。“ラビ、ヨルダン川の向こう側であなたと一緒にいた人、あなたが証しされたあの人が、洗礼を授けています。みんながあの人の方へ行っています。”

ヨハネ3:27 ヨハネは答えて言った。“天から与えられなければ、人は何も受けることができない。

ヨハネ3:28 わたしは、‘自分はメシアではない’と言い、‘自分はある方の前に遣わされた者だ’と言ったが、そのことについては、あなたたち自身が証ししてくれる。

ヨハネ3:29 花嫁を迎えるのは花婿だ。花婿の介添え人はそばに立って耳を傾け、花婿の音が聞こえると大いに喜ぶ。だから、わたしは喜びで満たされている。

ヨハネ3:30 あの方は栄え、わたしは衰えねばならない。”

ヨハネ3:31 “上から来られる方は、すべてのものの上におられる。

ヨハネ3:32 この方は、見たこと、聞いたことを証しされるが、だれもその証しを受け入れない。

ヨハネ3:33 その証しを受け入れる者は、神が真実であることを確認したことになる。

ヨハネ3:34 神がお遣わしになった方は、神の言葉を話される。神が、‘霊’を限りなくお与えになるからである。

ヨハネ3:35 御父は御子を愛して、その手にすべてをゆだねられた。

ヨハネ3:36 御子を信じる人は永遠の命を得手いるが、御子に従わない者は、命にあずかることがないばかりか、神の怒りがその上にとどまる。”

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ4:1 さて、イエスがヨハネよりも多くの弟子をつくり、洗礼を授けておられるということが、ファリサイ派の人々の耳に入った。イエスはそれを知ると、

ヨハネ4:2 ーーー洗礼を授けていたのは、イエス御自分ではなく、弟子たちでーーー

ヨハネ4:3 ユダヤを去り、再びガリラヤへ行かれた。

ヨハネ4:4 しかし、サマリアを通らねばならなかった。

ヨハネ4:5 それで、ヤコブがその子ヨセフに与えた土地の近くにある、シカルというサマリアの町に来られた。

ヨハネ4:6 そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅に疲れて、そのまま井戸のそばに座っておられた。正午ごろのことである。

ヨハネ4:7 サマリアの女が水をくみに来た。イエスは、“水を飲ませてください”と言われた。

ヨハネ4:8 弟子たちは食べ物を買うために町に行っていた。

ヨハネ4:9 すると、サマリアの女は、“ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか”と言った。ユダヤ人はサマリア人とは交際しないからである。

ヨハネ4:10 イエスは答えて言われた。“もしあなたが、神の賜物を知っており、また、‘水を飲ませてください’と言ったのがだれであるか知っていたならば、あなたの方からその人に頼み、その人はあなたに生きた水を与えたことであろう。”

ヨハネ4:11 女は言った。“主よ、あなたはくむ者をお持ちでないし、井戸は不快のです。どこからその生きた水にお入れになるのですか。

ヨハネ4:12 あなたは、わたしたちの父ヤコブよりも偉いのですか。ヤコブがこの井戸をわたしたちに与え、彼自身も、その子供や家畜も、この井戸から水を飲んだのです。”

ヨハネ4:13 イエスは答えて言われた。“この水を飲む者はだれでもまた渴く。

ヨハネ4:14 しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渴かない。わたしが与える水はその人の内で、泉となり、永

遠の命に至る水がわき出る。”

ヨハネ4:15 女は言った。“主よ、渇くことがないように、また、ここにくみに来なくてもいいように、その水をください。”

ヨハネ4:16 イエスが、“行ってあなたの夫をここに呼んで来なさい”と言われると、

ヨハネ4:17 女は答えて、“わたしには夫はいません”と言った。イエスは言われた。“夫はいません”とは、まさにそのとおりだ。

ヨハネ4:18 あなたには五人の夫がいたが、今連れ添っているのは夫ではない。あなたは、ありのままを言ったわけだ。”

ヨハネ4:19 女は言った。“主よ、あなたは預言者だとお見受けします。

ヨハネ4:20 わたしどもの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています。”

ヨハネ4:21 イエスは言われた。“婦人よ、わたしを信じなさい。あなたがたが、この山でもエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。

ヨハネ4:22 あなたがたは知らないものを礼拝しているが、わたしたちは知っているものを礼拝している。救いはユダヤ人から来るからだ。

ヨハネ4:23 しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。

ヨハネ4:24 神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。”

ヨハネ4:25 女が言った。“わたしは、キリストと呼ばれるメシアが来られることは知っています。その方が来られるとき、わたしたちに一切のことを知らせてくださいます。”

ヨハネ4:26 イエスは言われた。“それは、あなたと話をしているこのわたしである。”

ヨハネ4:27 ちょうどそのとき、弟子たちが帰って来て、イエスが女の人と話をしておられるのに驚いた。しかし、“何か御用ですか”とか、“何をこの人と話しておられるのですか”と言う者はいなかった。

ヨハネ4:28 女は、水がめをそこに置いたまま町に行き、人々に言った。

ヨハネ4:29 “さあ、見に来てください。わたしが行ったことをすべて、言い当てた人がいます。もしかしたら、この方がメシアかもしれません。”

ヨハネ4:30 人々は町を出て、イエスのもとへやって来た。

ヨハネ4:31 その間に、弟子たちが“ラビ、食事をどうぞ”と勧めると、

ヨハネ4:32 イエスは、“わたしはあなたがたの知らない食べ物がある”と言われた。

ヨハネ4:33 弟子たちは、“だれかが食べ物を持って来たのだろうか”と互いに言った。

ヨハネ4:34 イエスは言われた。“わたしの食べ物とは、わついをお遣わしになった方の御心を行い、その技を成し遂げることである。

ヨハネ4:35 あなたがたは、‘刈り入れまでまだ四か月もある’と言っているのではないか。わたしは言うておく。目を上げて畑を見るがよい。色づいて刈り入れを持っている。既に、

ヨハネ4:36 刈り入れる人は報酬を受け、永遠の命に至る実を集めている。こうして、種を蒔く人も刈る人も、共に喜ぶのである。

ヨハネ4:37 そこで、‘一人が種を蒔き、別の人が刈り入れる’ということわざのとおりになる。

ヨハネ4:38 あなたがたが自分では労苦しなかったものを刈り入れるために、わたしはあなたがたを遣わした。他の人々が労苦し、あなたがたはその労苦の実りにあずかっている。”

ヨハネ4:39 さて、その町の多くのサマリア人は、“この方が、わたしの行ったことをすべて言い当てました”と証言した女の言葉によって、イエスを信じた。

ヨハネ4:40 そこで、このサマリア人たちはイエスのもとにやって来て、自分たちのところにとどまるように頼んだ。イエスは、二日間そこに滞在された。

ヨハネ4:41 そして、更に多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた。

ヨハネ4:42 彼らは女に言った。“わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。わたしたちは自分で聞いて、この方が本当に世の救い主であると分かったからです。”

ヨハネ4:43 二日後、イエスはそこを出発して、ガリラヤへ行かれた。

ヨハネ4:44 イエスは自ら、“預言者は自分の故郷では敬われないものだ”とはっきり言われたことがある。

ヨハネ4:45 ガリラヤにお着きになると、ガリラヤの人たちはイエスを歓迎した。彼らも祭りに行ったので、そのときエルサレムでイエスがなさったことをすべて、見ていたからである。

ヨハネ4:46 イエスは、再びガリラヤのカナに行かれた。そこは、前にイエスが水をぶどう叫に変えられた所である。さて、カファルナウムに王の役人がいて、その息子が病気があった。

ヨハネ4:47 この人は、イエスがユダヤからガリラヤに来られたと聞き、イエスのもとに行き、カファルナウムまで下って来て息子をいやして下さるように頼んだ。息子が市にかかっていたからである。

ヨハネ4:48 イエスは役人に、“あなたがたは、しるしや不思議な業を見なければ、決して信じない”と言われた。

ヨハネ4:49 役人は、“主よ、子供が死なないうちに、おいでください”と言った。

ヨハネ4:50 イエスは言われた。“帰りなさい。あなたの息子は生きる。”その人は、イエスの言われた言葉を信じて帰って行った。

ヨハネ4:51 ところが、下って行く途中、僕たちが迎えに来て、その子が生きていることを告げた。

ヨハネ4:52 そこで、息子の病気が良くなった時刻を尋ねると、僕たちは、“きのうの午後一時に熱が下がりました”と言った。

ヨハネ4:53 それは、イエスが“あなたの息子は生きる”と言われたのと同じ時刻であることを、この父親は知った。そして、彼もその家族もこぞって信じた。

ヨハネ4:54 これは、イエスがユダヤからガリラヤに来てなされた、二回目のしるしである。

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ5:1 その後、ユダヤ人の祭りがあつたので、イエスはエルサレムに上られた。

ヨハネ5:2 エルサレムには羊の門の傍らに、ヘブライ語で“ベトザタ”と呼ばれる生けがあり、そこには五つの回廊があつた。

ヨハネ5:3 この回廊には、病気の人、目の見えない人、足の不自由な人、体の麻痺した人などが、大勢横たわっていた。

ヨハネ5:5 さて、そこに三十八年も病気で苦しんでいる人がいた。

ヨハネ5:6 イエスは、その人が横たわっているのを見、また、もう長い間、病気であるのを知って、“良くなりたいか”と言われた。

ヨハネ5:7 病気は答えた。“主よ、水が動くとき、わたしを池の中に入れてくれる人がいないのです。わたしが行くうちに、ほかの人が先に降りて行くのです。”

ヨハネ5:8 イエスは言われた。“起き上がりなさい。床を担いで歩きなさい。”

ヨハネ5:9 すると、その人はすぐに良くなって、床を担いで歩きだした。その日は安息日であつた。

ヨハネ5:10 そこで、ユダヤ人たちは病気をいやしていただいた人に言った。“今日は安息日だ。だから床を担ぐことは、律法で許されていない。”

ヨハネ5:11 しかし、その人は、“わたしをいやして下さった方が、‘床を担いで歩きなさい’と言われたのです”と答えた。

ヨハネ5:12 彼らは、“お前に‘床を担いで歩きなさい’と言ったのはだれだ”と尋ねた。

ヨハネ5:13 しかし、病気をいやしていただいた人は、それがだれであるか知らなかった。イエスは、群衆がそこにいる間に、立ち去られたからである。

ヨハネ5:14 その後、イエスは、神殿の境内でこの人に出会って言われた。“あなたは良くなったのだ。もう、罪を犯してはいけぬ。さもないと、もっと悪いことが起こるかもしれない。”

ヨハネ5:15 この人は立ち去って、自分をいやしたのはイエスだと、ユダヤ人たちに知らせた。

ヨハネ5:16 そのため、ユダヤ人たちはイエスを迫害し始めた。イエスが、安息日にこのようなことをしておられたからである。

ヨハネ5:17 イエスはお答えになった。“わたしの父は今もなお働いておられる。だから、わたしも働くのだ。”

ヨハネ5:18 このために、ユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとねらうようになった。イエスが安息日を破るだけでなく、神を御自分の父と呼んで、御自身を神と等しい者とされたからである。

ヨハネ5:19 そこで、イエスは彼らに言われた。“はっきり言っておく。子は、父のなさることを見なければ、自分からは何事もできない。父がなさることはなんでも、子もそのとおりにする。

ヨハネ5:20 父は子を愛して、御自分のなさることをすべて子に示されるからである。また、これらのことよりも大きな業を子にお示しになって、あなたたちが驚くことになる。

ヨハネ5:21 すなわち、父が死者を復活させて命をお与えになるように、子も、与えたいと思う者に命を与える。

ヨハネ5:22 また、父はだれをも裁かず、裁きは一切子に任せておられる。

ヨハネ5:23 すべての人が、父を敬うように、子をも敬うようになるためである。子をうやまわぬ者は、子をお遣わし

になった父をも敬わない。

ヨハネ5:24 はっきり言うておく。わたしの言葉を聞いて、わたしをお遣わしになった方を信じる者は、永遠の命を得、また、裁かれることなく、死から命へと移っている。

ヨハネ5:25 はっきり言うておく。死んだ者が神の子の声を聞く時が来る。今やその時である。その声を聞いた者は生きる。

ヨハネ5:26 父は、御自身の内に命を持っておられるように、子にも自分の内に命を持つようにしてくださったからである。

ヨハネ5:27 また、裁きを行う権能を子にお与えになった。子は人の子だからである。

ヨハネ5:28 驚いてはならない。時が来ると、墓の中にいる者は皆、人の子の声を聞き、

ヨハネ5:29 善を行った者は復活して命を受けるために、悪を行った者は復活して裁きを受けるために出て来るのだ。

ヨハネ5:30 わたしは自分では何もできない。ただ、父から聞くままに裁く。わたしの裁きは正しい。わたしは自分の意志ではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行おうとするからである。”

ヨハネ5:31 “もし、わたしが自分自身について証しをするなら、その証しは真実ではない。

ヨハネ5:32 わたしについて証しをなさる方は別にられる。そして、その方がわたしについてなさる証しは真実であることを、わたしは知っている。

ヨハネ5:33 あなたたちはヨハネのもとへ人を送ったが、彼は真理について証しをした。

ヨハネ5:34 わたしは、人間による証しは受けない。しかし、あなたたちが救われるために、これらのことを言うておく。

ヨハネ5:35 ヨハネは、燃えて輝くともし火であった。あなたたちは、しばらくの間その光のもとで喜び楽しもうとした。

ヨハネ5:36 しかし、わたしにはヨハネの証しにまさる証しがある。父がわたしに成し遂げるようにお与えになった業、つまり、わたしが行っている業そのものが、父がわたしをお遣わしになったことを証している。

ヨハネ5:37 また、わたしをお遣わしになった父が、わたしについて証しをしてくださる。あなたたちは、まだ父のお声を聞いたこともなければ、お姿を見たこともない。

ヨハネ5:38 また、あなたたちは、自分の内に父のお言葉をとどめていない。父がお遣わしになった者を、あなたたちは信じないからである。

ヨハネ5:39 あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ。

ヨハネ5:40 それなのに、あなたたちは、命を得るためにわたしのところへ来ようとしなない。

ヨハネ5:41 わたしは、人からの誉は受けない。

ヨハネ5:42 しかし、あなたたちの内には神への愛がないことを、わたしは知っている。

ヨハネ5:43 わたしは父の名によって来たのに、あなたたちはわたしを受け入れない。もし、ほかの人が自分の名によって来れば、あなたたちは受け入れる。

ヨハネ5:44 互いに相手からの誉は受けるのに、唯一の神からの誉は求めようとしなないあなたたちには、どうして信じることができようか。

ヨハネ5:45 わたしが父にあなたたちを訴えるなどと、考えてはならない。あなたたちを訴えるのは、あなたたちが頼りにしているモーセなのだ。

ヨハネ5:46 あなたたちは、モーセを信じたのであれば、わたしをも信じたはずだ。モーセは、わたしについて書いているからである。

ヨハネ5:47 しかし、モーセの書いたことを信じないのであれば、どうしてわたしが語ることを信じることができようか。”

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ6:1 その後、イエスはガリラヤ湖、すなわちティベリアス湖の向こう岸に渡られた。

ヨハネ6:2 大勢の群衆が後を追った。イエスが病人たちになさったしるしを見たからである。

ヨハネ6:3 イエスは山に登り、弟子たちと一緒にそこにお座りになった。

ヨハネ6:4 ユダヤ人の祭りである過越祭が近づいていた。

ヨハネ6:5 イエスは目を上げ、大勢の群衆が御自分の方へ来るのを見て、フィリポに、“この人たちに食べさせるに

は、どこでパンを買えばよいだろうか”と言われたが、

ヨハネ6:6 こう言ったのはフィリポを試みるためであって、御自分では何をしようとしているか知っておられたのである。

ヨハネ6:7 フィリポは、“めいめいが少しずつ食べるためにも、二百デナリオン分のパンでは足りないでしょう”と答えた。

ヨハネ6:8 弟子の一人で、シモン・ペトロ兄弟アンデレが、イエスに言った。

ヨハネ6:9 “ここに大麦のパン五つと魚二匹とも持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう。”

ヨハネ6:10 イエスは、“人々を座れせなさい”と言われた。そこには草がたくさん生えていた。男たちはそこに座ったが、その数はおよそ五千人であった。

ヨハネ6:11 さて、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えてから、座っている人々に分け与えられた。また、魚も同じようにして、欲しいだけ分け与えられた。

ヨハネ6:12 人々が満腹したとき、イエスは弟子たちに、“少しも無駄にならないように、残ったパンの屑を集めなさい”と言われた。

ヨハネ6:13 集めると、人々が五つの大麦パンを食べて、なお残ったパンの屑で、十二の籠がいっぱいになった。

ヨハネ6:14 そこで、人々はイエスのなさったしるしを見て、“まさにこの人こそ、世に來られる預言者である”と言った。

ヨハネ6:15 イエスは、人々が来て、自分を王にするために連れて行こうとしているのを知り、ひとりでもた山に退かれた。

ヨハネ6:16 夕方になったので、弟子たちは湖畔へ下りて行った。

ヨハネ6:17 そして、舟に乗り、湖の向こう岸のカファルナウムに行こうとした。既に暗くなっていたが、イエスはまだ彼らのところには来ておられなかった。

ヨハネ6:18 強い風が吹いて、湖は荒れ始めた。

ヨハネ6:19 二十五ないし三十スタディオンばかり漕ぎ出したところ、イエスが湖の上を歩いて舟に近づいて來られるのを見て、彼らは恐れた。

ヨハネ6:20 イエスは言われた。“わたしだ。恐れることはない。”

ヨハネ6:21 そこで、彼らはイエスを舟に迎え入れようとした。すると間もなく、舟は目指す地に着いた。

ヨハネ6:22 その翌日、湖の向こう岸に残っていた群衆は、そこには小舟が一そうしかなかったこと、また、イエスは弟子たちと一緒に舟に乗り込まれず、弟子たちだけが出かけたことに気づいた。

ヨハネ6:23 ところが、ほかの小舟が数そうティベリアスから、主が感謝の祈りを唱えられた後に人々がパンを食べた場所へ近づいて來た。

ヨハネ6:24 群衆は、イエスも弟子たちもそこにいないと知ると、自分たちもそれらの小舟に乗り、イエスを探し求めてカファルナウムに來た。

ヨハネ6:25 そして、湖の向こう岸でイエスを見つけると、“ラビ、いつ、ここにおいでになったのですか”と言った。

ヨハネ6:26 イエスは答えて言われた。“はっきり言うておく、あなたがたがわたしを探しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからだ。”

ヨハネ6:27 朽ちる食べ物のためではなく、いつまでもなくなるしないで、永遠の命に至る食べ物のために働きなさい。これこそ、人の子があなたがたに与える食べ物である。父である神が、人の子を認証されたからである。”

ヨハネ6:28 そこで彼らが、“神の業を行うためには、何をしたらよいでしょうか”と言うと、

ヨハネ6:29 イエスは答えて言われた。“神がお遣わしになった者を信じること、それが神の業である。”

ヨハネ6:30 そこで、彼らは言った。“それでは、わたしたちが見てあなたを信じるができるように、どんなしるしを行ってくださいますか。どのようなことをしてくださいますか。”

ヨハネ6:31 わたしたちの先祖は、荒れ野でマンナを食べました。'天からのパンを彼らに与えて食べさせた'と書いてあるとおりです。”

ヨハネ6:32 すると、イエスは言われた。“はっきり言うておく。モーセが天からのパンをあなたがたに与えたのではなく、わたしの父が天からのまことのパンをお与えになる。”

ヨハネ6:33 神のパンは、天から降って來て、世の命を与えるものである。”

ヨハネ6:34 そこで、彼らが、“主よ、そのパンをいつもわたしたちにください”と言うと、

ヨハネ6:35 イエスは言われた。“わたしが命のパンである。わたしのもとに來る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。”

ヨハネ6:36 しかし、前にも言ったように、あなたがたはわたしを見ているのに、信じない。

ヨハネ6:37 父がわたしにお与えになる人は皆、わたしのところに来る。わたしのもとに來る人を、わたしは決して追



い出さない。

ヨハネ6:38 わたしが天から降って来たのは、自分の意志を行うためではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行うためである。

ヨハネ6:39 わたしをお遣わしになった方の御心とは、わたしに与えてくださった人を一人も失わないで、終わりの日に復活させることである。

ヨハネ6:40 わたしの父の御心は、子を見て信じる者が皆永遠の命を得ることであり、わたしがその人を終わりの日に復活させることだからである。”

ヨハネ6:41 ユダヤ人たちは、イエスが“わたしは天から降って来たパンである”と言われたので、イエスのことでつぶやき初め、

ヨハネ6:42 こう言った。“これはヨセフの息子のイエスではないか。我々はその父も母も知っている。どうして今、‘わたしは天から降って来た’などと言うのか。”

ヨハネ6:43 イエスは答えて言われた。‘つぶやき合うのはやめなさい。

ヨハネ6:44 わたしをお遣わしになった父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとへ来ることはできない。わたしはその人を終わりの日に復活させる。

ヨハネ6:45 預言者の書に、‘彼らは皆、神によって教えられる’と書いてある。父から聞いて学んだ者は皆、わたしのもとに来る。

ヨハネ6:46 父を見た者は一人もない。神のもとから来た者だけが父を見たのである。

ヨハネ6:47 はっきり言うておく。信じる者は永遠の命を得ている。

ヨハネ6:48 わたしは命のパンである。

ヨハネ6:49 あなたたちの先祖は荒野でマンナを食べたが、死んでしまった。

ヨハネ6:50 しかし、これは天から降って来たパンであり、これを食べる者は死なない。

ヨハネ6:51 わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである。”

ヨハネ6:52 それで、ユダヤ人たちは、“どうしてこの人は自分の肉を我々に食べさせることができるのか”と、互いに激しく議論し始めた。

ヨハネ6:53 イエスは言われた。“はっきり言うておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。

ヨハネ6:54 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。

ヨハネ6:55 わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。

ヨハネ6:56 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。

ヨハネ6:57 生きておられる父がわたしをお遣わしになり、またわたしが父によって生きるように、わたしを食べる者もわたしによって生きる。

ヨハネ6:58 これは天から降って来たパンである。先祖が食べたのに死んでしまったようなものとは違う。このパンを食べる者は永遠に生きる。”

ヨハネ6:59 これらは、イエスがカファルナウムの会堂で教えていたときに話されたことである。

ヨハネ6:60 ところで、弟子たちの多くの者はこれを聞いて言った。“実にひどい話だ。だれが、こんな話を聞いていられようか。”

ヨハネ6:61 イエスは、弟子たちがこのことについてつぶやいているのに気づいて言われた。“あなたがたはこのことにつまずくのか。

ヨハネ6:62 それでは、人の子がもいた所に上るのを見るならば・・・。

ヨハネ6:63 命を与えるのは、‘霊’である。肉は何の役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、命である。

ヨハネ6:64 しかし、あなたがたのうちには信じない者たちもいる。”イエスは最初から、信じない者たちがだれであるか、また、御自分を裏切る者がだれであるかを知っておられたのである。

ヨハネ6:65 そして、言われた。“こういうわけで、わたしはあなたがたに、‘父からお許しがなければ、だれもわたしのもとに来ることはできない’と言ったのだ。”

ヨハネ6:66 このために、弟子たちの多くが離れ去り、もはやイエスと共に歩まなくなった。

ヨハネ6:67 そこで、イエスは十二人に、“あなたがたも離れて行きたいか”と言われた。

ヨハネ6:68 シモン・ペトロが答えた。“主よ、わたしたちはだれののところへ行きますか。あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。

ヨハネ6:69 あなたこそ神の聖者であると、わたしたちは信じ、また知っています。”

ヨハネ6:70 すると、イエスは言われた。“あなたが十二人は、わたしが選んだのではないか。ところが、その中の一人は悪魔だ。”

ヨハネ6:71 イスカリオテのシモンの子ユダのことを言われたのである。このユダは、十二人でありながら、イエスを裏切ろうとしていた。

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ7:1 その後、イエスはガリラヤを巡っておられた。ユダヤ人が殺そうとねらっていたので、ユダヤを巡ろうとは思わなかった。

ヨハネ7:2 ときに、ユダヤ人の仮庵祭が近づいていた。

ヨハネ7:3 イエスの兄弟たちが言った。“ここを去ってユダヤに行き、あなたのしている業を弟子たちにも見せてやりなさい。

ヨハネ7:4 公に知られようとしながら、ひそかに行動するような人はいない。こういうことをしているからには、自分を世にはっきり示しなさい。”

ヨハネ7:5 兄弟たちも、イエスを信じていなかったのである。

ヨハネ7:6 そこで、イエスは言われた。“わたしの時はまだ来ていない。しかし、あなたがたの時はいつも備えられている。

ヨハネ7:7 世はあなたがたを憎むことができないが、わたしを憎んでいる。わたしが、世の行っている業は悪いと証しているからだ。

ヨハネ7:8 あなたがたは祭りに上って行くがよい。わたしはこの祭りには上って行かない。まだ、わたしの時が来ていないからである。”

ヨハネ7:9 こう言って、イエスはガリラヤにとどまられた。

ヨハネ7:10 しかし、巨大たちが祭りに上って言ったとき、イエス御自身も、人目を裂け、隠れるようにして上って行かれた。

ヨハネ7:11 祭りのときユダヤ人たちはイエスを捜し、“あの男はどこにいるのか”と言っていた。

ヨハネ7:12 群衆の間では、イエスのことがいろいろとささやかれていた。“良い人だ”と言う者もいれば、“いや、群衆を惑わしている”と言う者もいた。

ヨハネ7:13 しかし、ユダヤ人たちを恐れて、イエスについて公然と語る者はいなかった。

ヨハネ7:14 祭りも既に半ばになったころ、イエスは神殿の境内に上って行って、教え始められた。

ヨハネ7:15 ユダヤ人たちが驚いて、“この人は、学問をしたわけでもないのに、どうして聖書をこんなによく知っているのだろう”と言うと、

ヨハネ7:16 イエスは答えて言われた。“わたしの教えは、自分の教えではなく、わたしをお遣わしになった方の教えである。

ヨハネ7:17 この方の御心を行おうとする者は、わたしの教えが神から出たものか、わたしが勝手に話しているのか、分かるはずである。

ヨハネ7:18 自分勝手に話す者は、自分の栄光を求める。しかし、自分をお遣わしになった方の栄光を求める者は真実な人であり、その人には不義がない。

ヨハネ7:19 モーセはあなたたちに律法を与えたではないか。ところが、あなたたちはだれもその律法を守らない。なぜ、わたしを殺そうとするのか。”

ヨハネ7:20 群衆が答えた。“あなたは悪霊に取りつかれている。だれがあなたを殺そうというのか。”

ヨハネ7:21 イエスは答えて言われた。“わたしが一つの業を行ったというので、あなたたちは皆驚いている。

ヨハネ7:22 しかし、モーセはあなたたちに割礼を命じた。――もつとも、これはモーセからではなく、族長たちから始まったのだが――だから、あなたたちは安息日にも割礼を施している。

ヨハネ7:23 モーセの律法を破らないようにと、人は安息日であっても割礼を受けるのに、わたしが安息日に全身をいやしたからといって腹を立てるのか。

ヨハネ7:24 うわべだけで裁くのをやめ、正しい裁きをしなさい。”

ヨハネ7:25 さて、エルサレムの人々の中には次のように言う者たちがいた。“これは、人々が殺そうとねらっている者ではないか。

ヨハネ7:26 あんなに公然と話しているのに、何も言われない。議員たちは、この人がメシアだということを、本当に認めたのではなかろうか。

ヨハネ7:27 しかし、わたしたちは、この人がどこの出身かを知っている。メシアが来られるときは、どこから来られるのか、だれも知らないはずだ。”

ヨハネ7:28 すると、神殿の境内で教えていたイエスは、大声で言われた。“あなたたちはわたしのことを知っており、また、どこの出身かも知っている。わたしは自分勝手に来たのではない。わたしをお遣わしになった方は真実であるが、あなたたちはその方を知らない。

ヨハネ7:29 わたしはその方を知っている。わたしはその方のもとから来た者であり、その方がわたしをお遣わしになったのである。”

ヨハネ7:30 人々はイエスを捕らえようとしたが、手をかける者はいなかった。イエスの時はまだ来ていなかったからである。

ヨハネ7:31 しかし、群衆の中にはイエスを信じる者が大勢いて、“メシアが来られても、この人よりも多くのしるしをなさるだろうか”と言った。

ヨハネ7:32 ファリサイ派の人々は、群衆がイエスについてこのようにささやいているのを耳にした。祭司長たちとファリサイ派の人々は、イエスを捕らえるために下役たちを遣わした。

ヨハネ7:33 そこで、イエスは言われた。“今しばらく、わたしはあなたたちと共にいる。それから、自分をお遣わしになった方のもとへ帰る。

ヨハネ7:34 あなたたちは、わたしを捜しても、見つけることがない。わたしのいる所に、あなたたちは来ることができない。”

ヨハネ7:35 すると、ユダヤ人たちが互いに言った。“わたしたちが見つけることはないとは、いったい、どこへ行くつもりだろう。ギリシア人の間に離散しているユダヤ人のところへ行って、ギリシア人に教えるとでもいうのか。

ヨハネ7:36 “あなたたちは、わたしを捜しても、見つけることがない。わたしのいる所に、あなたたちは来ることができない”と彼は言ったが、その言葉はどういう意味なのか。”

ヨハネ7:37 祭りが最も盛大に祝われる終わりの日に、イエスは立ち上がって大声で言われた。“渇いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。

ヨハネ7:38 わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。”

ヨハネ7:39 イエスは、御自分を信じる人々が受けようとしている。‘霊’について言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、‘霊’がまだ降っていなかったからである。

ヨハネ7:40 この言葉を聞いて、群衆の中には、“この人は、本当にあの預言者だ”と言う者や、

ヨハネ7:41 “この人はメシアだ”と言う者がいたが、このように言う者もいた。“メシアはガリラヤから出るだろうか。

ヨハネ7:42 メシアはダビデの子孫で、ダビデのいた村ベツレヘムから出ると、聖霊に書いてあるではないか。”

ヨハネ7:43 こうして、イエスのことで群衆の間に対立が生じた。

ヨハネ7:44 その中にはイエスを捕えようと思う者もいたが、手をかける者はなかった。

ヨハネ7:45 さて、祭司長たちやファリサイ派の人々は、下役たちが戻って来たとき、“どうして、あの男を連れて来なかったのか”と言った。

ヨハネ7:46 下役たちは、“今まで、あの人のように話した人はいません”と答えた。

ヨハネ7:47 すると、ファリサイ派の人々は言った。“お前たちまでも感わされたのか。

ヨハネ7:48 議員やファリサイ派の人々の中に、あの男を信じた者がいるだろうか。

ヨハネ7:49 だが、律法を知らないこの群衆は、呪われている。”

ヨハネ7:50 彼らの中の一人で、以前イエスを尋ねたことのあるニコデモが言った。

ヨハネ7:51 “我々の律法によれば、まず本人から事情を聞き、何をしたかを確かめたうえでなければ、判決を下してはならないことになっているではないか。”

ヨハネ7:52 彼らは答えて言った。“あなたもガリラヤ出身なのか。よく調べてみなさい。ガリラヤから預言者の出ないことが分かる。”

ヨハネ7:53 [人々はおのおの家へ帰って行った。

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ8:1 イエスはオリーブ山へ行かれた。

ヨハネ8:2 朝早く、再び神殿の境内に入られると、民衆が皆、御自分のところにやって来たので、座って教え始められた。

ヨハネ8:3 そこへ、律法学者たちやファリサイ派の人々が、姦通の現場で捕らえられた女を連れて来て、真ん中に立たせ、

ヨハネ8:4 イエスに言った。“先生、この女は姦通をしているときに捕まりました。

ヨハネ8:5 こういう女は石で打ち殺せと、モーセは律法の中で命じています。ところで、あなたはどうかお考えになりますか。”

ヨハネ8:6 イエスを試して、訴える口実を得るために、こう言ったのである。イエスはかがみ込み、指で地面に何か書き始められた。

ヨハネ8:7 しかし、彼らがしつこく問い続けるので、イエスは身を起こして言われた。“あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まず、この女に石を投げなさい。”

ヨハネ8:8 そしてまた、身をかがめて地面に書き続けられた。

ヨハネ8:9 これを聞いた者は、年長者から始まって、一人また一人と、立ち去ってしまい、イエスひとりと、真ん中にいた女が残った。

ヨハネ8:10 イエスは、身を起こして言われた。“婦人よ、あの人たちはどこにいるのか。だれもあなたを罪に定めなかったのか。”

ヨハネ8:11 女が、“主よ、だれも”と言うと、イエスは言われた。“わたしもあなたを罪に定めません。行きなさい。これからは、もう罪を犯してはならない。”

ヨハネ8:12 イエスは再び言われた。“わたしは世の光である。わたしに従う者は暗やみの中を歩かず、命の光を持つ。”

ヨハネ8:13 それで、ファリサイ派の人々が言った。“あなたは自分について証しをしている。その証しは真実ではない。”

ヨハネ8:14 イエスは答えて言われた。“たとえわたしが自分について証しをすとしても、その証しは真実である。自分がどこから来たのか。そしてどこへ行くのか、わたしは知っているからだ。しかし、あなたたちは、わたしがどこから来てどこへ行くのか、知らない。”

ヨハネ8:15 あなたたちは肉に従って裁くが、わたしはだれをも裁かない。

ヨハネ8:16 しかし、もしわたしが裁くとすれば、わたしの裁きは真実である。なぜならわたしはひとりではなく、わたしをお遣わしになった父と共にいるからである。

ヨハネ8:17 あなたたちの律法には、二人が行う証しは真実であると書いてある。

ヨハネ8:18 わたしは自分について証しをしており、わたしをお遣わしになった父もわたしについて証しをしてくださる。”

ヨハネ8:19 彼らが“あなたの父はどこにいるのか”と言うと、イエスはお答えになった。“あなたたちは、わたしもわたしの父も知らない。もし、わたしを知っていたら、わたしの父をも知るはずだ。”

ヨハネ8:20 イエスは神殿の境内で教えておられたとき、宝物殿の近くでこれらのことを話された。しかし、だれもイエスを捕らえなかった。イエスの時がまだ来ていなかったからである。

ヨハネ8:21 そこで、イエスはまた言われた。“わたしは去って行く。あなたたちはわたしを捜すだろう。だが、あなたたちは自分の罪のうちに死ぬことになる。わたしの行く所に、あなたたちは来ることができない。”

ヨハネ8:22 ユダヤ人たちが、“わたしの行く所に、あなたたちは来ることができない”と言っているが、自殺でもするつもりなのだろうか”と話していると、

ヨハネ8:23 イエスは彼らに言われた。“あなたたちは下のものに属しているが、わたしは上のものに属している。あなたたちはこの世に属しているが、わたしはこの世に属していない。”

ヨハネ8:24 だから、あなたたちは自分の罪のうちに死ぬことになる、わたしは言ったのである。‘わたしはある’ということ信じないならば、あなたたちは自分の罪のうちに死ぬことになる。”

ヨハネ8:25 彼らが、“あなたは、いったい、どなたですか”と言うと、イエスは言われた。“それは始めから話しているではないか。”

ヨハネ8:26 あなたたちについては、言うべきこと、裁くべきことがたくさんある。しかし、わたしをお遣わしになった方は真実であり、わたしはその方から聞いたことを、世に向かって話している。”

ヨハネ8:27 彼らは、イエスが御父について話しておられることを悟らなかつた。

ヨハネ8:28 そこで、イエスは言われた。“あなたたちは、人の子を上げたときに初めて、‘わたしはある’ということ、また、わたしが自分勝手には何もせず、ただ、父に教えられたとおりに話していることが分かるだろう。”

ヨハネ8:29 わたしをお遣わしになった方は、わたしと共にいてくださる。わたしをひとりにしてはおかれぬ。わたし

は、いつもこの方の御心に適うことを行うからである。”

ヨハネ8:30 これらのことを語られたとき、多くの人々がイエスを信じた。

ヨハネ8:31 イエスは、御自分を信じたユダヤ人たちに言われた。“わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。

ヨハネ8:32 あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。”

ヨハネ8:33 すると、彼らは言った。“わたしたちはアブラハムの子孫です。今までだれかの奴隷になったことはありません。‘あなたたちは自由になる’とどうして言われるのですか。”

ヨハネ8:34 イエスはお答えになった。“はっきり言っておく。罪を犯す者はだれでも罪の奴隷である。

ヨハネ8:35 奴隷は家にいつまでもいるわけにはいかないが、子はいつまでもいる。

ヨハネ8:36 だから、もし子があなたたちを自由にすれば、あなたたちは本当に自由になる。

ヨハネ8:37 あなたたちがアブラハムの子孫だということは、分かっている。だが、あなたたちはわたしを殺そうとしている。わたしの言葉を受け入れないからである。

ヨハネ8:38 わたしは父のもとで見たことを話している。ところが、あなたたちは父から聞いたことを行っている。”

ヨハネ8:39 彼らが答えて、“わたしたちの父はアブラハムです”と言うと、イエスは言われた。“アブラハムの子なら、アブラハムと同じ業をするはずだ。

ヨハネ8:40 ところが、今、あなたたちは、神から聞いた真理をあなたたちに語っているこのわたしを、殺そうとしている。アブラハムはそんなことはしなかった。

ヨハネ8:41 あなたたちは、自分の父と同じ業をしている。”そこで彼らが、“わたしたちは姦淫によって生れたのではありません。わたしたちにはただひとりの父がいます。それは神です。”と言うと、

ヨハネ8:42 イエスは言われた。“神があなたたちの父であれば、あなたたちはわたしを愛するはずである。なぜなら、わたしは神のもとから来て、ここにいるからだ。わたしは自分勝手に来たのではなく、神がわたしをお遣わしになったのである。

ヨハネ8:43 わたしの言っていることが、なぜ分からないのか。それは、わたしの言葉を聞くことができないからだ。

ヨハネ8:44 あなたたちは、悪魔である父から出た者であって、その父の欲望を満たしたいと思っている。悪魔は最初から人殺しであって、真理をよりどころとしていない。彼の内には真理がないからだ。悪魔が偽りを言うときは、その本性から言っている。自分が偽り者であり、その父だからで◆

**8,44-1,父だからである。**

ヨハネ8:45 しかし、わたしが真理を語るから、あなたたちはわたしを信じない。

ヨハネ8:46 あなたたちのうち、いったいだれが、わたしに罪があると責めることができるのか。わたしは真理を語っているのに、なぜわたしを信じないのか。

ヨハネ8:47 神に属する者は神の言葉を聞く。あなたたちが聞かないのは神に属していないからである。”

ヨハネ8:48 ユダヤ人たちが、“あなたはサマリア人で悪霊に取りつかれていると、我々が言うのも当然ではないか”と言い返すと、

ヨハネ8:49 イエスはお答えになった。“わたしは悪霊に取りつかれてはいない。わたしは父を重んじているのに、あなたたちはわたしを重んじない。

ヨハネ8:50 わたしは、自分の栄光は求めていない。わたしの栄光を求め、裁きをなさる方が、ほかにおられる。

ヨハネ8:51 はっきり言っておく。わたしの言葉を守ら、その人は決して死ぬことがない。”

ヨハネ8:52 ユダヤ人たちは言った。“あなたが悪霊に取りつかれていることが、今はっきりした。アブラハムは死んだし、預言者たちも死んだ。ところが、あなたは、‘わたしの言葉を守るなら、その人は決して死を味わうことがない’と言う。

ヨハネ8:53 わたしたちの父アブラハムよりも、あなたは偉大なのか。彼は死んだではないか。預言者たちも死んだ。いったい、あなたは自分を何者だと思っているのか。”

ヨハネ8:54 イエスはお答えになった。“わたしが自分自身のために栄光を求めようとしているのであれば、わたしの栄光はむなし。わたしに栄光を与えてくださるのはわたしの父であって、あなたたちはこの方について、‘我々の神だ’と言っている。

ヨハネ8:55 あなたたちはその方を知らないが、わたしは知っている。わたしがその方を知らないと言えば、あなたたちと同じくわたしも偽り者になる。しかし、わたしはその方を知っており、その言葉を守っている。

ヨハネ8:56 あなたたちの父アブラハムは、わたしの日を見るのを楽しみにしていた。そして、それを見て、喜んだのである。”

ヨハネ8:57 ユダヤ人たちが、“あなたは、まだ五十歳にもならないのに、アブラハムを見たのか”と言うと、

ヨハネ8:58 イエスは言われた。“はっきり言っておく。アブラハムが生まれる前から、‘わたしはある。’”

ヨハネ8:59 すると、ユダヤ人たちは、石を取り上げ、イエスに投げつけようとした。しかし、イエスは身を隠して、神

殿の境内から出て行かれた。

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ9:1 さて、イエスは通りすがりに、生まれつき目の見えない人を見かけられた。

ヨハネ9:2 弟子たちがイエスに尋ねた。“ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。”

ヨハネ9:3 イエスはお答えになった。“本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。

ヨハネ9:4 わたしたちは、わたしをお遣わしになった方の業を、まだ日のあるうちに行わねばならない。だれも働くことのできない夜が来る。

ヨハネ9:5 わたしは、世にいる間、世の光である。”

ヨハネ9:6 こう言ってから、イエスは地面に唾をし、唾で土をこねてその人の目にお塗りになった。

ヨハネ9:7 そして、“シロアム——’遣わされた者’という意味——の生けに行って洗いなさい”と言われた。そこで、彼は行って洗い、目が見えるようになって、帰って来た。

ヨハネ9:8 近所の人々や、彼が物乞いであったのを前に見ていた人々が、“これは、座って物乞いをしていた人ではないか”と言った。

ヨハネ9:9 “その人だ”と言う者もいれば、“いや違う。似ているだけだ”と言う者もいた。本人は、“わたしがそうなので”と言った。

ヨハネ9:10 そこで人々が、“では、お前の目はどのようにして開いたのか”と言うと、

ヨハネ9:11 彼は答えた。“イエスという方が、土をこねてわたしの目に塗り、シロアムに行って洗いなさい”と言われました。そこで、行って洗ったら、見えるようになったのです。”

ヨハネ9:12 人々が、“その人はどこにいるのか”と言うと、彼は“知りません”と言った。

ヨハネ9:13 人々は、前に盲人であった人をファリサイ派の人々のところへ連れて行った。k

ヨハネ9:14 イエスが土をこねてその目を開けられたのは、安息日のことであった。

ヨハネ9:15 そこで、ファリサイ派の人々も、どうして見えるようになったのかと尋ねた。彼は言った。“あの方が、わたしの目にこねた土を塗りました。そして、わたしが洗うと、見えるようになったのです。”

ヨハネ9:16 ファリサイ派の人々の中には、“その人は、安息日を守らないから、神のもとから来た者ではない”と言う者もいれば、“どうして罪のある人間が、こんなしるしを行うことができるだろうか”と言う者もいた。こうして、彼らの間で意見が分かれた。

ヨハネ9:17 そこで、人々は盲人であった人に再び言った。“目を開けてくれたということだが、いったい、お前はあの人をどう思うのか。”彼は“あの方は預言者です”と言った。

ヨハネ9:18 それでも、ユダヤ人たちはこの人について、盲人であったのに、メガ見えるようになったということを信じなかった。ついに、目が見えるようになった人の両親を呼び出して、

ヨハネ9:19 尋ねた。“この者はあなたたちの息子で、生まれつきメガ見えなかったと言うのか。それが、どうして今は目が見えるのか。”

ヨハネ9:20 両親は答えて言った。“これがわたしどもの息子で、生まれつき目が見えなかったことは知っています。

ヨハネ9:21 しかし、どうして今、目が見えるようになったかは、分かりません。だれが目を開けてくれたのかも、わたしどもは分かりません。本人にお聞きください。もう大人ですから、自分のことは自分で話すでしょう。”

ヨハネ9:22 両親がこう言ったのは、ユダヤ人たちを恐れていたからである。ユダヤ人たちは既に、イエスをメシアであると公に言い表す者がいれば、会堂から追放すると決めていたのである。

ヨハネ9:23 両親が、“もう大人ですから、本人にお聞きください”と言ったのは、そのためである。

ヨハネ9:24 さて、ユダヤ人たちは、盲人であった人をもう一度呼び出して言った。“神の前で正直に答えなさい。わたしたちは、あの者が罪ある人間だと知っているのだ。”

ヨハネ9:25 彼は答えた。“あの方が罪人かどうか、わたしには分かりません。ただ一つ知っているのは、目の見えなかったわたしが、今は見えるということです。”

ヨハネ9:26 すると、彼らは言った。“あの者はお前にどんなことをしたのか。お前の目をどうやって開けたのか。”

ヨハネ9:27 彼は答えた。“もうお話したのに、聞いてくださりませんでした。なぜまた、聞こうとなさるのですか。あなたがたもあの方の弟子になりたいのですか。”

ヨハネ9:28 そこで、彼らはののしって言った。“お前はあの者の弟子だが、我々はモーセの弟子だ。  
ヨハネ9:29 我々は、神がモーセに語られたことは知っているが、あの者がどこから来たのかは知らない。”  
ヨハネ9:30 彼は答えて言った。“あの方がどこから来られたか、あなたがたがご存じないとは、実に不思議です。あの方は、わたしの目を開けてくださったのに。  
ヨハネ9:31 神は罪人の言うことはお聞きにならないと、わたしたちは承知しています。しかし、神をあがめ、その御心を行う人の言うことは、お聞きになります。  
ヨハネ9:32 生まれつき目が見えなかった者の目を開けた人がいるということなど、これまで一度も聞いたことがありません。  
ヨハネ9:33 あの方が神のもとから来られたのでなければ、何もおできにならなかったはずですよ。”  
ヨハネ9:34 彼らは、“お前は全く罪の中に生れたのに、我々に教えようというのか”と言い返し、彼を外に追い出した。  
ヨハネ9:35 イエスは彼が外に追い出されたことをお聞きになった。そして彼に出会うと、“あなたは人の子を信じるか”と言われた。  
ヨハネ9:36 彼は答えて言った。“主よ、その方はどんな人ですか。その方を信じたいのですが。”  
ヨハネ9:37 イエスは言われた。“あなたは、もうその人を見ている。あなたと話しているのが、その人だ。”  
ヨハネ9:38 彼が、“主よ、信じます”と行って、ひざまずくと、  
ヨハネ9:39 イエスは言われた。“わたしがこの世に北のは、裁くためである。こうして、見えない者は見えるようになり、見える者は見えないようになる。”  
ヨハネ9:40 イエスは一緒に居合せたファリサイ派の人々は、これらのことを聞いて、“我々も見えないということか”と言った。  
ヨハネ9:41 イエスは言われた。“見えなかったのであれば、罪はなかったであろう。しかし、今、‘見える’とあなたたちは言っている。だから、あなたたちの罪は残る。”  
ヨハネ\*\*\*:  
ヨハネ\*\*\*:  
ヨハネ\*\*\*:  
ヨハネ\*\*\*:  
ヨハネ\*\*\*:  
ヨハネ10:1 “はっきり言うておく。羊の囲いに入るのに、門を通らないでほかの所を乗り越えて来る者は、盗人であり、強盗である。  
ヨハネ10:2 門から入る者が羊飼いである。  
ヨハネ10:3 門番は羊飼いには門を開き、羊はその声を聞き分ける。羊飼いは自分の羊の名を四で連れ出す。  
ヨハネ10:4 自分の羊をすべて連れ出すと、先頭に立って行く。羊はその声を知っているので、ついて行く。  
ヨハネ10:5 しかし、ほかの者には決してついて行かず、逃げ去る。ほかの者たちの声を知らないからである。”  
ヨハネ10:6 イエスは、このたとえをファリサイ派の人々に話されたが、彼らはその話が何のことか分からなかった。  
ヨハネ10:7 イエスはまた言われた。“はっきり言うておく。わたしは羊の門である。  
ヨハネ10:8 わたしより前に来た者は皆、盗人であり、強盗である。しかし、羊は彼らの言うことを聞かなかった。  
ヨハネ10:9 わたしは門である。わたしを通過して入る者は救われる。その人は、門を出入りして牧草を見つける。  
ヨハネ10:10 盗人が来るのは、盗んだり、屠ったり、亡ぼしたりするためにほかならない。わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。  
ヨハネ10:11 わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。  
ヨハネ10:12 羊飼いでなく、自分の羊を持たない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして逃げる。——狼は羊を奪い、また追い散らす。——  
ヨハネ10:13 彼は雇い人で、羊のことを心にかけていないからである。  
ヨハネ10:14 わたしは良い羊飼いである。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。  
ヨハネ10:15 それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。わたしは羊のために命を捨てる。  
ヨハネ10:16 わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる。その羊をも導かなければならない。その羊もわたしの声を聞き分ける。こうして、羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れになる。  
ヨハネ10:17 わたしは命を、再び受けるために、捨てる。それゆえ、父はわたしを愛してくださる。  
ヨハネ10:18 だれでもわたしから命を奪い取ることはできない。わたしは自分でそれを捨てる。わたしは命を捨てることもでき、それを再び受けることもできる。これは、わたしが父から受けた掟である。”

ヨハネ10:19 この話をめぐって、ユダヤ人たちの間にまた対立が生じた。

ヨハネ10:20 多くのユダヤ人は言った。“彼は悪霊に取りつかれて、気が変になっている。なぜ、あなたたちは彼の言うことに耳を貸すのか。”

ヨハネ10:21 ほかの者たちは言った。“悪霊に取りつかれた者は、こういうことは言えない。悪霊に盲人の目が開けられようか。”

ヨハネ10:22 そのころ、エルサレムで神殿奉獻記念祭が行われた。冬であった。

ヨハネ10:23 イエスは、神殿の境内でソロモンの回廊を歩いておられた。

ヨハネ10:24 すると、ユダヤ人たちがイエスを取り囲んで言った。“いつまで、わたしたちに気をもませるのか。もしメシアなら、はっきりそう言いなさい。”

ヨハネ10:25 イエスは答えられた。“わたしは言ったが、あなたたちは信じない。わたしが父の名によって行う業が、わたしについて証しをしている。

ヨハネ10:26 しかし、あなたたちは信じない。わたしの羊ではないからである。

ヨハネ10:27 わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う。

ヨハネ10:28 わたしは彼らに永遠の命を与える。彼らは決して滅びず、だれも彼らをわたしの手から奪うことはできない。

ヨハネ10:29 わたしの父がわたしにくださったものは、すべてのものより偉大であり、だれも父の手から奪うことはできない。

ヨハネ10:30 わたしは父とは一つである。”

ヨハネ10:31 ユダヤ人たちは、イエスを石で打ち殺そうとして、また石を取り上げた。

ヨハネ10:32 すると、イエスは言われた。“わたしは、父が与えてくださった多くの善い業をあなたたちに示した。その中のどの業のために、石で打ち殺そうとするのか。”

ヨハネ10:33 ユダヤ人たちは答えた。“善い業のことで、石で打ち殺すのではない。神を冒したからだ。あなたは、人間なのに、自分を神としているからだ。”

ヨハネ10:34 そこで、イエスは言われた。“あなたたちの律法に、‘わたしは言う。あなたたちは神々である’と書いてあるではないか。

ヨハネ10:35 神の言葉を受けた人たちが、‘神々’と言われている。そして、聖書が廢れることはありえない。

ヨハネ10:36 それなら、父から聖なる者とされて世に遣わされたわたしが、‘わたしは神の子である’と言ったからとて、どうして神を冒している’と言うのか。

ヨハネ10:37 もし、わたしが父の業を行っていないのであれば、わたしを信じなくてもよい。

ヨハネ10:38 しかし、行っているのであれば、わたしを信じなくても、その業を信じなさい。そうすれば、父がわたしの内におられ、わたしが父の内にいることを、あなたたちは知り、また悟るだろう。”

ヨハネ10:39 そこで、ユダヤ人たちはまたイエスを捕らえようとしたが、イエスは彼らの手を逃れて、去って行かれた。

ヨハネ10:40 イエスは、再びヨルダンの向こう側、ヨハネが最初に洗礼を授けていた所に行って、そこに滞在された。

ヨハネ10:41 多くの人がイエスのもとに来て言った。“ヨハネは何のしるしも行わなかったが、彼がこの方について話したことは、すべて本当だった。”

ヨハネ10:42 そこでは、多くの人がイエスを信じた。

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ11:1 ある病人がいた。マリアとその姉妹マルタの村、ベタニアの出身で、ラザロといった。

ヨハネ11:2 このマリアは主に香油を塗り、髪の毛で主の足をぬぐった女である。そのきゅうおうだいラザロが病気であった。

ヨハネ11:3 姉妹たちはイエスのもとに人をやって、“主よ、あなたの愛しておられる者が病気なのです”と言わせた。

ヨハネ11:4 イエスは、それを聞いて言われた。“この病気は死で終わるものではない。神の栄光のためである。神の子がそれによって栄光を受けるのである。”

ヨハネ11:5 イエスは、マルタとその姉妹とラザロを愛しておられた。

ヨハネ11:6 ラザロが病気だと聞いてからも、なお二日間同じ所に滞在された。



ヨハネ11:7 それから、弟子たちに言われた。“もう一度、ユダヤに行こう。”

ヨハネ11:8 弟子たちは言った。“ラビ、ユダヤ人たちがついこの間もあなたを石で打ち殺そうとしたのに、またそこへ行かれるのですか。”

ヨハネ11:9 イエスはお答えになった。“昼間は十二時間あるではないか。昼のうちに歩けば、つまづくことはない。この世の光を見ているからだ。”

ヨハネ11:10 しかし、夜歩けば、つまづく。その人の内に光がないからである。”

ヨハネ11:11 こうお話しになり、また、その後で言われた。“わたしたちの友ラザロが眠っている。しかし、わたしは彼を起こしに行く。”

ヨハネ11:12 弟子たちは、“主よ、眠っているのであれば、助かるでしょう”と言った。

ヨハネ11:13 イエスはラザロの死について話されたのだが、弟子たちは、ただ眠りについて話されたものと思ったのである。

ヨハネ11:14 そこでイエスは、はっきりと言われた。“ラザロは死んだのだ。”

ヨハネ11:15 わたしはその羽に居合せなかったのは、あなたがたにとってよかった。あなたがたが信じるようになるためである。さあ、彼のところへ行こう。”

ヨハネ11:16 すると、ディディモと呼ばれるトマスが、仲間の弟子たちに、“わたしたちも行って、一緒に死のうではないか”と言った。

ヨハネ11:17 さて、イエスが行って御覧になると、ラザロは墓に葬られて既に四日もたっていた。

ヨハネ11:18 ベタニアはエルサレムと近く、十五スタディオンのほどのところにあった。

ヨハネ11:19 マルタとマリアのところには、多くのユダヤ人が、兄弟ラザロのことで慰めに来っていた。

ヨハネ11:20 マルタは、イエスが来られたと聞いて、迎えに行ったが、マリアは家の中に座っていた。

ヨハネ11:21 マルタはイエスに言った。“主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょうに。”

ヨハネ11:22 しかし、あなたが神にお願いになることは何でm御上はかなえてくださると、わたしは今でも承知しています。”

ヨハネ11:23 イエスが、“あなたの兄弟は復活する”と言われると、

ヨハネ11:24 マルタは、“終わりの日の復活の時に復活することは存じております”と言った。

ヨハネ11:25 イエスは言われた。“わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。”

ヨハネ11:26 生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。”

ヨハネ11:27 マルタは言った。“はい、主よ、あなたが世に来られるはずの神の子、メシアであるとわたしは信じております。”

ヨハネ11:28 マルタは、こう言ってから、家に帰って姉妹のマリアを呼び、“先生がいらして、あなたをお呼びです”と耳打ちした。

ヨハネ11:29 マリアはこれを聞くと、すぐに立ち上がり、イエスのもとに行った。

ヨハネ11:30 イエスはまだ村には入らず、マルタが出迎えた場所におられた。

ヨハネ11:31 家の中でマリアと一緒にいて、慰めていたユダヤ人たちは、彼女が急に立ち上がって出て行くのを見て、墓に泣きに行くのだろうと思い、後を追った。

ヨハネ11:32 マリアはイエスのおられる所に来て、イエスを見るなり足もとにひれ伏し、“主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょうに”と言った。

ヨハネ11:33 イエスは、彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのを見て、心に憤りを覚え、興奮して、

ヨハネ11:34 言われた。“どこに葬ったのか。”彼らは、“主よ、来て、御覧ください”と言った。

ヨハネ11:35 イエスは涙を流された。

ヨハネ11:36 ユダヤ人たちは、“御覧なさい、どんなにラザロを愛しておられたことか”と言った。

ヨハネ11:37 しかし、中には、“盲人の目を開けたこの人も、ラザロが死なないようにはできなかったのか”と言う者もいた。

ヨハネ11:38 イエスは、再び心に憤りを憶えて、墓に来られた。墓は洞穴で、石でふさがれていた。

ヨハネ11:39 イエスが、“その石を取りのけなさい”と言われると、死んだラザロの姉妹マルタが、“主よ、四日もたっていますから、もうおいます”と言った。

ヨハネ11:40 イエスは、“もう信じるなら、神の栄光が見られると、言っておいたではないか”と言われた。

ヨハネ11:41 人々が石を取りのけると、イエスは天を仰いで言われた。“父よ、わたしの願いを聞き入れてくださって感謝します。”

ヨハネ11:42 わたしの願いをいつも聞いてくださることを、わたしは知っています。しかし、わたしがこう言うおは、周

りにいる群衆のためです。あなたがわたしをお遣わしになったことを、彼らに信じさせるためです。”

ヨハネ11:43 こう言ってから、“ラザロ、出てきなさい”と大声で叫ばれた。

ヨハネ11:44 すると、死んでいた人が手と足を布で巻かれたまま出て来た。顔は覆いで包まれていた。イエスは人々に、“ほどこいてやって、行かせなさい”と言われた。

ヨハネ11:45 マリアのところに来て、イエスのなされたことを目撃したユダヤ人の多くは、イエスを信じた。

ヨハネ11:46 しかし、中には、ファリサイ派の人々のもとへ行き、イエスのなされたことを告げる者もいた。

ヨハネ11:47 そこで、祭司長たちとファリサイ派の人々は最高法院を召集して言った。“この男は多くのしるしを行っているが、どうすればよいか。

ヨハネ11:48 このままにしておけば、皆が彼を信じるようになる。そして、ローマ人が来て、我々の神殿も国民も亡ぼしてしまうだろう。”

ヨハネ11:49 彼らの中の一人で、その年の大祭司であったカイアファが言った。“あなたがたは兄も分かっていない。

ヨハネ11:50 一人の人間が民の代りに死に、国民全体が亡びないで済む方が、あなたがたに好都合だとは考えないのか。”

ヨハネ11:51 これは、カイアファが自分の考えから話したのではない。その年の大祭司であったので預言して、イエスが国民のために死ぬ、と言ったのである。

ヨハネ11:52 国民のためばかりでなく、散らされている神の子たちを一つに集めるためにも死ぬ、と言ったのである。

ヨハネ11:53 この日から、彼らはイエスを殺そうとくらんだ。

ヨハネ11:54 それで、イエスはもはや公然とユダヤ人たちの間を歩くことはなく、そこを去り、荒れ野に近い地方のエフラ임という町に行き、弟子たちとそこに滞在された。

ヨハネ11:55 さて、ユダヤ人の過越祭が近づいた。多くの人が身を清めるために、過越祭の前に地方からエルサレムへ上った。

ヨハネ11:56 彼らはイエスを探し、神殿の境内で互いに言った。“どう思うか。あの人はこの祭りには来ないのだろうか。”

ヨハネ11:57 祭司長たちとファリサイ派の人々は、イエスの居どころが分かれば届け出よと、命令を出していた。イエスを逮捕するためである。

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ12:1 過越祭の六日間に、イエスがベタニアに行かれた。そこには、イエスが死者の中からよみがえらせたラザロがいた。

ヨハネ12:2 イエスのためにそこで夕食が用意され、マルタは給仕をしていた。ラザロは、イエスと共に食事の席に着いた人々の中にいた。

ヨハネ12:3 そのとき、マリアが純粹で非常に公課なナルドの香油を一リトラ持って来て、イエスの足に塗り、自分の髪でその足をぬぐった。家は香油の香りでいっぱいになった。

ヨハネ12:4 弟子の一人で、後にイエスを裏切るイスカリオテのユダが言った。

ヨハネ12:5 “なぜ、この香油を三百デナリオンで売って、貧しい人々に施さなかったのか。”

ヨハネ12:6 彼がこう言ったのは、貧しい人々のことを心にかけていたからではない。彼は盗人であって、金入れを預かっていながら、その中身をごまかしていたからである。

ヨハネ12:7 イエスは言われた。“この人のするままにさせておきなさい。わたしの葬りの日のために、それを取って置いたのだから。

ヨハネ12:8 貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいるが、わたしはいつも <---sysolにいるわけではない。”

ヨハネ12:9 イエスがそこにおられるのを知って、ユダヤ人の大群衆がやって来た。それはイエスだけが目当てではなく、イエスが死者の中からよみがえらせたラザロを見るためでもあった。

ヨハネ12:10 祭司長たちはラザロをも殺そうと謀った。

ヨハネ12:11 多くのユダヤ人がラザロのことで離れて行って、イエスを信じるようになったからである。

ヨハネ12:12 その翌日、祭りに来ていた大勢の群衆は、イエスがエルサレムに来られると聞き、

ヨハネ12:13 なつめやしの枝を持って迎えに出た。そして、叫び続けた。“ホサナ。主の泣によって来られる方に、

祝福があるように、イスラエルの王に。”

ヨハネ12:14 イエスはろばの子を見つけて、お乗りになった。次のように書いてあるとおりでである。

ヨハネ12:15 “シオンの娘よ、恐れるな。見よ、お前の王がおいでになる。ろばの子に乗って。”

ヨハネ12:16 弟子たちは最初これらのことが分からなかったが、イエスが栄光を受けられたとき、それがイエスについて係れたものであり、人々がそのとおりにイエスにしたということを思い出した。

ヨハネ12:17 イエスがラザロを墓から呼び出して、死者の中からよみがえらせたとき一緒にいた群衆は、その証しをしていた。

ヨハネ12:18 群衆がイエスを出迎えたのも、イエスがこのようなしるしをなさったと聞いていたからである。

ヨハネ12:19 そこで、ファリサイ派の人々は互いに言った。“見よ、何をしても無駄だ。世をあげてあの男について行ったではないか。”

ヨハネ12:20 さて、祭りのとき礼拝するためにエルサレムに上って来た人々の中に、何人かのギリシア人がいた。

ヨハネ12:21 彼らは、ガリラヤのベトサイダ出身のファリポのもとへ来て、“お願いします。イエスにお眼にかかりたいのです”と頼んだ。

ヨハネ12:22 ファリポは行ってアンデレに話し、アンデレとファリポは行って、イエスに話した。

ヨハネ12:23 イエスはこうお答えになった。“人の子が栄光を受ける時が来た。

ヨハネ12:24 はっきり言うておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ぬば、多くの実を結ぶ。

ヨハネ12:25 自分の命を愛する者は、それを失うが、この世で自分の命を憎む人は、それを保って永遠の命に至る。

ヨハネ12:26 わたしに仕えようとする者は、わたしに従え。そうすれば、わたしのいるところに、わたしに仕える者もいることになる。わたしに仕える者がいれば、父はその人を大切にしてくださる。”

ヨハネ12:27 “今、わたしは心騒ぐ。何と言おうか。’父よ、わたしをこの時から救ってください’と言おうか。しかし、わたしはまさにこの時のために来たのだ。

ヨハネ12:28 父よ、御名の栄光を現してください。“すると、天から声が聞こえた。“わたしは既に栄光を現そう。”

ヨハネ12:29 そばにいた群衆は、これを聞いて、“雷が鳴った”と言い、ほかの者たちは、“天使がこの人に話しかけたのだ”と言った。

ヨハネ12:30 イエスは答えて言われた。“この声が聞こえたのは、わたしのためではなく、あなたがたのためだ。

ヨハネ12:31 今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。

ヨハネ12:32 わたしは地上から上げられるとき、すべての人を自分のもとへ引き寄せよう。”

ヨハネ12:33 イエスは、御自分がどのような死を遂げるかを示そうとして、こう言われたのである。

ヨハネ12:34 すると、群衆は言葉を返した。“わつしたちは律法によって、メシアは永遠にいつもおられると聞いていました。それなのに、人の子は上げられなければならない、とどうして言われるのですか。その’人の子’とはだれのことですか。”

ヨハネ12:35 イエスは言われた。“光は、いましばらく、あなたがたの間にある。暗闇に追いつかれないように、光のあるうちに歩きなさい。暗闇の中を歩く者は、自分がどこへ行くのか分からない。

ヨハネ12:36 光の子となるために、光のあるうちに、光を信じなさい。”イエスはこれらのことを話してから、立ち去って彼らから身を隠された。

ヨハネ12:37 このように多くのしるしを彼らの目の前で行われたが、彼らはイエスを信じなかった。

ヨハネ12:38 預言者イザヤ言葉が実現するためであった。彼はこう言っている。“主よ、だれがわたしたちの知らせを信じましたか。主の御腕は、だれに示されましたか。”

ヨハネ12:39 彼らが信じるができなかった理由を、イザヤはまた次のように言っている。

ヨハネ12:40 “神は彼らの目を見えなくし、その心をかたくなにされた。こうして、彼らは目で見ることなく、心で悟らず、立ち帰らない。わたしは彼らをいやさない。”

ヨハネ12:41 イザヤは、イエスの栄光を見たので、このように言い、イエスについて語ったのである。

ヨハネ12:42 とはいえ、議員の中にもイエスを信じる者は多かった。ただ、会堂から追放されるのを恐れ、ファリサイ派の人々をはばかって公に言い表さなかった。

ヨハネ12:43 彼らは、神からの誉れよりも、人間からの誉の方を好んだのである。

ヨハネ12:44 イエスは叫んで、こう言われた。“わたしを信じる者は、わたしを信じるのではなくて、わたしを遣わされた方を信じるのである。

ヨハネ12:45 わたしを見る者は、わたしを遣わされた方を見るのである。

ヨハネ12:46 わたしを信じる者が、だれも暗闇の中にとどまることのないように、わたしは光として世に来た。

ヨハネ12:47 わたしの言葉を聞いて、それを守らない者がいても、わたしはその者を裁かない。わたしは、世を裁くためではなく、世を救うために来たからである。

ヨハネ12:48 わたしを拒み、わたしの言葉を受け入れない者に対しては、裁くものがある。わたしの語った言葉が、終わりの日にその者を裁く。

ヨハネ12:49 なぜなら、わたしは自分勝手に語ったのではなく、わたしをお遣わしになった父が、わたしの言うべきこと、語るべきことをお命じになったからである。

ヨハネ12:50 父の命令は永遠の命であることを、わたしは知っている。だから、わたしが語ることは、父がわたしに命じられたままに語っているのである。”

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ13:1 さて、過越祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。

ヨハネ13:2 夕食のときであった。既に悪魔は、イスカリオテのシモンの子ユダに、イエスを裏切る考えを抱かせていた。

ヨハネ13:3 イエスは、父がすべてを御自分の手にゆだねられたこと、また、御自分が神のもとから来て、神のもとに帰ろうとしていることを悟り、

ヨハネ13:4 食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。

ヨハネ13:5 それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまとって手ぬぐいでふき始められた。

ヨハネ13:6 シモン・ペトロのところに来ると、ペトロは、“主よ、あなたがわたしの足を洗ってくださるのですか？”と言った。

ヨハネ13:7 イエスは答えて、“わたしのしていることは、今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる”と言われた。

ヨハネ13:8 ペトロが、“わたしの足など、決して洗わないでください”と言うと、イエスは、“もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしに何のかかわりもないことになる”と答えられた。

ヨハネ13:9 そこでシモン・ペトロが言った。“主よ、足だけでなく、手も頭も。”

ヨハネ13:10 イエスは言われた。“既に体を洗った者は、全身清いだから、足だけ洗えばよい。あなたがたは聖いのだが、皆が清いわけではない。”

ヨハネ13:11 イエスは、御自分を裏切ろうとしている者がだれであるかを知っておられた。それで、“皆が清いわけではない”と言われたのである。

ヨハネ13:12 さて、イエスは、弟子たちの足を洗ってしまうと、上着を着て、再び席に着いて言われた。“わたしがあなたがたにしたことが分かるか。

ヨハネ13:13 あなたがたは、わたしを‘先生’とか‘主’とか呼ぶ。そのように言うおは正しい。わたしはそうである。

ヨハネ13:14 とところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。

ヨハネ13:15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするよにと、模範を示したのである。

ヨハネ13:16 はっきり言うておく。僕は主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさはしない。

ヨハネ13:17 このことが分かり、そのとおりに実行するなら、幸いである。

ヨハネ13:18 わたしは、あなたがた皆について、こう言っているのではない。わたしは、どのような人々を選び出したか分かっている。しかし、‘わたしのパンを食べている者が、わたしに逆らった’という聖書の言葉は実現しなければならない。

ヨハネ13:19 事の起こる前に、今、言うておく。事が起こったとき、‘わたしはある’ということを、あなたがたが信じるようになるためである。

ヨハネ13:20 はっきり言うておく。わたしの遣わす者を受け入れる人は、わたしを受け入れ、わたしを受け入れる人は、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである。”

ヨハネ13:21 イエスはこう話し終えると、心を騒がせ、断言された。“はっきり言うておく。あなたがたのうちの一人がわついを裏切ろうとしている。”

ヨハネ13:22 弟子たちは、だれについて言うておられるのか察しかねて、顔を見合わせた。

ヨハネ13:23 イエスのすぐ隣には、弟子たちの一人で、イエスを愛しておられた者が食事の席に着いていた。

ヨハネ13:24 シモン・ペテロはこの弟子に、だれについて言っておられるのかと尋ねるように合図した。

ヨハネ13:25 その弟子が、イエスの胸もとに寄りかかったまま、“主よ、それはだれのことですか”と言うと、

ヨハネ13:26 イエスは、“わたしがパン切れを浸して与えるのがその人だ”と答えられた。それから、パン切れを浸して取り、イスカリオテのシモンの子ユダにお与えになった。

ヨハネ13:27 ユダがパン切れを受け取ると、サタンが彼の中に入った。そこでイエスは、“しようとしていることを、今すぐ、しなさい”と彼に言われた。

ヨハネ13:28 座に着いていた者はだれも、なぜユダにこう言われたのか分からなかった。

ヨハネ13:29 ある者は、ユダが金入れを預かっていたので、“祭りに必要な物を買いなさい”とか、貧しい人に何か施すようにと、イエスが言われたのだと思っていた。

ヨハネ13:30 ユダはパン切れを受け取ると、すぐ出て行った。夜であった。

ヨハネ13:31 さて、ユダが出て行くと、イエスは言われた。“今や、人の子は栄光を受けた。神も人の子によって栄光をお受けになった。

ヨハネ13:32 神が人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も御自身によって人の子に栄光をお与えになる。しかも、すぐにお与えになる。

ヨハネ13:33 子たちよ、いましばらく、わたしはあなたがたと共にいる。あなたがたはわたしを捜すだろう。‘わたしが行く所にあなたたちは来ることができない’とユダヤ人たちに行ったように、今、あなたがたにも同じことを言うておく。

ヨハネ13:34 あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

ヨハネ13:35 互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。”

ヨハネ13:36 シモン・ペトロがイエスに言った。“主よ、どこへ行かれるのですか。”イエスが答えられた。“わたしの行く所に、あなたは今ついて来ることができないが、後について来ることになる。”

ヨハネ13:37 ペトロは言った。“主よ、なぜ今ついて行けないのですか。あなたのためなら命を捨てます。”

ヨハネ13:38 イエスは答えられた。“わたしのために命を捨てると言うのか。はっきり言うておく。鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしのことを知らないと言うだろう。”

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ14:1 “心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。

ヨハネ14:2 わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。

ヨハネ14:3 行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとの迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。

ヨハネ14:4 わたしがどこへ行くのか、その道をあなたがたは知っている。”

ヨハネ14:5 トマスが言った。“主よ、どこへ行かれるのか、わたしたちには分かりません。どうして、その道を知ることができるでしょうか。”

ヨハネ14:6 イエスは言われた。“わたしは道であり、真理であり、命である。わついを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。

ヨハネ14:7 あなたがたがわたしを知っているなら、わたしの父をも知ることになる。今から、あなたがたは父を知る。いや、既に父を見ている。”

ヨハネ14:8 フィリポが“主よ、わたしたちに御父をお示してください。そうすれば満足できます”と言うと、

ヨハネ14:9 イエスは言われた。“フィリポ、こんなに長い間一緒にいるのに、わたしが分かっているのか。わたしを見た者は、父を見たのだ。なぜ、‘わたしたちに御父をお示してください’と言うのか。

ヨハネ14:10 わたしが父の内におり、父がわたしの内におられることを、信じないのか。わたしがあなたがたに言う言葉は、自分から話しているのではない。わたしの内におられる父が、その業を行っておられるのである。

ヨハネ14:11 わたしが父の内におり、父がわたしの内におられると、わたしが言うのを信じなさい。もしそれを信じないなら、業そのものによって信じなさい。

ヨハネ14:12 はっきり言うておく。わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる。わたしが父のもとへ行くからである。

ヨハネ14:13 わたしの名によって願うことは、何でもかなえてあげよう。こうして、父は子によって栄光をお受けにな

る。

ヨハネ14:14 わたしの名によって何かを願うならば、わたしがかなえてあげよう。”

ヨハネ14:15 “あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。

ヨハネ14:16 わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてください。

ヨハネ14:17 この方は、真理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかし、あなたがたはこの霊を知っている。この霊があなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからである。

ヨハネ14:18 わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来る。

ヨハネ14:19 しばらくすると、世はもうわたしを見なくなるが、あなたがたはわたしを見る。わたしが生きているので、あなたがたも生きることになる。

ヨハネ14:20 かの日には、わたしが父の内におり、あなたがたがわたしの内におり、わたしもあなたがたの内におることが、あなたがたに分かる。

ヨハネ14:21 わたしの掟を受入、それを守る人は、わたしを愛する者である。わたしを愛する人は、わたしの父に愛される。わたしもその人を愛して、その人にわたし自身を現す。”

ヨハネ14:22 イスカリオテでない方のユダが、“主よ、わたしたちには御自分を現そうとなさるのに、世にはそうならぬのは、なぜでしょうか”と言った。

ヨハネ14:23 イエスはこう答えて言われた。“わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む。

ヨハネ14:24 わたしを愛さない者は、わたしの言葉を守らない。あなたがたが来ている言葉はわたしのものではなく、わたしをお遣わしになった父のものである。

ヨハネ14:25 わたしは、あなたがたといたときに、これらのことを話した。

ヨハネ14:26 しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。

ヨハネ14:27 わたしは、平和をあなたがたに残し、私の平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。

ヨハネ14:28 ‘わたしは去って行くが、また、あなたがたのところへ戻って来る’と言ったのをあなたがたは聞いた。わたしを愛しているなら、わたしが父のもとに行くのを喜んでくれるはずだ。父はわたしよりも偉大な方だからである。

ヨハネ14:29 事が起こったときに、あなたがたが信じるようにと、今、その事の起こる前に話しておく。

ヨハネ14:30 もはや、あなたがたと多くを語るまい。世の支配者が来るからである。だが、彼はわたしをどうすることもできない。

ヨハネ14:31 わたしが父を愛し、父をお命じになったとおりに行っていることを、世は知るべきである。さあ、立て。ここから出かけよう。”

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ15:1 “わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。

ヨハネ15:2 わたしにつながっているながら、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる。

ヨハネ15:3 わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている。

ヨハネ15:4 わたしにつながっていないさい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていないければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながっていないければ、実を結ぶことができない。

ヨハネ15:5 わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。

ヨハネ15:6 わたしにつながっていない人がいれば、枝のように外に投げ捨てられて枯れる。そして、集められ、火に投げ入れられて焼かれてしまう。

ヨハネ15:7 あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたの内にもあるならば、望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる。

ヨハネ15:8 あなたがたが豊かに実を結び、わたしの弟子となるなら、それによって、わたしの父は栄光をお受けに

なる。

ヨハネ15:9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。

ヨハネ15:10 わたしが父の掟を守り、その愛にとどまっているように、あなたがたも、わたしの掟を守るなら、わたしの愛にとどまっていることになる。

ヨハネ15:11 これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるためである。

ヨハネ15:12 わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。

ヨハネ15:13 友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。

ヨハネ15:14 わたしの命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。

ヨハネ15:15 もはや、わたしはあなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人が何をしているか知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである。

ヨハネ15:16 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。

ヨハネ15:17 互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である。”

ヨハネ15:18 “世があなたがたを憎むなら、あなたがたを憎む前にわたしを憎んでいたことを覚えなさい。

ヨハネ15:19 あなたがたが世に属していたなら、余波あなたがたを身内として愛したはずである。だが、あなたがたは世に属していない。わたしがあなたがたを世から選び出した。だから、世はあなたがたを憎むのである。

ヨハネ15:20 ‘僕は主人にまさりはしない’と、わたしが言った言葉を思い出しなさい。人々がわたしを迫害したのであれば、あなたがたをも迫害するだろう。わたしの言葉を守ったのであれば、あなたがたの言葉をも守るだろう。

ヨハネ15:21 しかし人々は、わたしの名のゆえに、これらのことをみな、あなたがたにするようになる。わたしをお遣わしになった方を知らないからである。

ヨハネ15:22 わたしが来て彼らに話さなかったなら、彼らに罪はなかったであろう。だが、今は、彼らは自分の罪について弁解の余地がない。

ヨハネ15:23 わたしを憎む者は、わたしの父をも憎んでいる。

ヨハネ15:24 だれも行ったことのない業を、わたしが彼らの間で行わなかったなら、彼らに罪はなかったであろう。だが今は、その業を見たらうえで、わたしとわたしの父を憎んでいる。

ヨハネ15:25 しかし、それは、‘人々は理由もなく、わたしを憎んだ’と、彼らの律法に書いてある言葉が実現するためである。

ヨハネ15:26 わたしが父のもとからあなたがたに遣わそうとしている弁護者、すなわち、父のもとから出る真理の霊が来るとき、その方がわたしについて証しをなさるはずである。

ヨハネ15:27 あなたがたも、初めからわたしと一緒にいたのだから、証しをするのである。

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ16:1 これらのことを話したのは、あなたがたをつまずかせないためである。

ヨハネ16:2 人々はあなたがたを会堂から追放するだろう。しかも、あなたがたを殺す者が皆、自分は神に奉仕していると考える時が来る。

ヨハネ16:3 彼らがこういうことをするのは、父をもわたしをも知らないからである。

ヨハネ16:4 しかし、これらのことを話したのは、その時が来たときに、わたしが語ったということをあなたがたに思い出させるためである。”初めからこれらのことを言わなかったのは、わたしがあなたがたと一緒にいたからである。

ヨハネ16:5 今わたしは、わたしをお遣わしになった方のもとに行こうとしているが、あなたがたはだれも、‘どこへ行くのか’と尋ねない。

ヨハネ16:6 むしろ、わたしがこれらのことを話したので、あなたがたの心は悲しみで満たされている。

ヨハネ16:7 しかし、実を言うと、わたしが去って行くのは、あなたがたのためになる。わたしが去って行かなければ、弁護者はあなたがたのところに来ないからである。わたしが行けば、弁護者をあなたがたのところへ送る。

ヨハネ16:8 その方が来れば、罪について、義について、また、裁きについて、世の誤りを明らかにする。

ヨハネ16:9 積み荷については、彼らがわたしを信じないこと、

ヨハネ16:10 義については、わたしが父のもとに行き、あなたがたもはやわたしを見なくなること、

ヨハネ16:11 また、裁きについてとは、この世の死は医者が断罪されることである。

ヨハネ16:12 言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。

ヨハネ16:13 しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。

ヨハネ16:14 その方はわたしに栄光を与える。わたしのものを受けて、あなたがたに告げるからである。

ヨハネ16:15 父が持つておられるものはすべて、わたしのものである。だから、わたしは、'その方がわたしのものを受けて、あなたがたに告げる'と言ったのである。”

ヨハネ16:16 “しばらくすると、あなたがたはもうわたしを見なくなり、またしばらくすると、わたしを見るようになる。”

ヨハネ16:17 そこで、弟子たちのある者は互いに言った。“しばらくすると、あなたがたはわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見るようになる'とか、'父のもとに行く'とか言っておられるのは、何のことだろう。”

ヨハネ16:18 また、言った。“しばらくすると'と言っておられるのは、何のことだろう。何を話しておられるのか分からない。”

ヨハネ16:19 イエスは、彼らが尋ねたがっているのを知って言われた。“しばらくすると、あなたがたはわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見るようになる'と、わたしが言ったことについて、論じ合っているのか。

ヨハネ16:20 はっきり言っておく。あなたがたは泣いて避難に暮れるが、世は喜ぶ。あなたがたは悲しむが、その悲しみは喜びに変わる。

ヨハネ16:21 女は子供を産むとき、苦しむものだ。自分の時が来たからである。しかし、子供が生まれると、一人の人間が世に生まれ出た喜びのために、もはやその苦痛を思い出さない。

ヨハネ16:22 ところで、今はあなたがたも、悲しんでいる。しかし、わたしは再びあなたがたと会い、あなたがたは心から喜ぶことはなる。その喜びをあなたがたから奪い去る者はいない。

ヨハネ16:23 その日には、あなたがたはもはや、わたしに何も尋ねない。はっきり言っておく。あなたがたがわたしの名によって何かを父に願うならば、父はお与えになる。

ヨハネ16:24 今までは、あなたがたはわたしの名によっては何も願わなかった。願いなさい。そうすれば与えられ、あなたがたは喜びで満たされる。”

ヨハネ16:25 わたしはこれらのことを、たとえを用いて話してきた。もはやたとえによらず、はっきり父について知らせる時が来る。

ヨハネ16:26 その日には、あなたがたはわたしの名によって願うことになる。わたしがあなたがたのために父に願ってあげる、とは言わない。

ヨハネ16:27 父御自身が、あなたがたを愛しておられるのである。あなたがたが、わたしを愛し、わたしが神のもとから出て来たことを信じたからである。

ヨハネ16:28 わたしは父のもとから出て、世に来たが、今、世を去って、父のもとに行く。”

ヨハネ16:29 弟子たちは言った。“今は、はっきりとお話しになり、少しもたとえを用いられません。

ヨハネ16:30 あなたが何でもご存じで、だれもお尋ねする必要のないことが、今、分かりました。これによって、あなたが神のもとから来られたと、わたしたちは信じます。”

ヨハネ16:31 イエスはお答えになった。“今ようやく、信じるようになったのか。

ヨハネ16:32 だが、あなたがたが散らされて自分の家に帰ってしまい、わたしをひとりきりにする時が来る。いや、既に来ている。しかし、わたしはひとりではない。父が、共にいてくださるからだ。

ヨハネ16:33 これらのことを話したのは、あなたがたがわたしによって平和を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。”

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ17:1 イエスはこれらのことを話してから、天を仰いで言われた。“父よ、時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現すようになるために、子に栄光を与えてください。

ヨハネ17:2 あなたは子にすべての人を支配する権能をお与えになりました。そのために、子はあなたがたからゆだねられた人すべてに、永遠の命を与えることができます。

ヨハネ17:3 永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。

ヨハネ17:4 わたしは、行こうようにとあなたが与えてくださった業を成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました。

ヨハネ17:5 父よ、今、見前でわたしに栄光を与えてください。世界が造られる前に、わたしがみもとで持っていたあ



の栄光を。

ヨハネ17:6 世から選び出してわたしに与えてくださった人々に、わたしは皆を現しました。彼らはあなたのものですが、あなたはわたしに与えてくださいました。彼らは、御言葉を守りました。

ヨハネ17:7 わたしに与えてくださったものはみな、あなたからのものであることを、今、彼らは知っています。

ヨハネ17:8 なぜなら、わたしはあなたから受けた言葉を彼らに伝え、彼らはそれを受け入れて、わたしがみもとから出て来たことを本当に知り、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じたからです。

ヨハネ17:9 彼らのためにお願いします。世のためではなく、わたしに与えてくださった人々のためにお願いします。彼らはあなたのものだからです。

ヨハネ17:10 わたしのもはすべてあなたのもの、あなたのものはわたしのものです。わたしは彼らによって栄光を受けました。

ヨハネ17:11 わたしは、もはや世にはいません。彼らは世に残りますが、わたしはみもとに参ります。聖なる父よ、わたしに与えてくださった御名によって彼らを守ってください。わたしたちのように、彼らも一つとなるためです。

ヨハネ17:12 わたしは彼らと一緒にいる間、あなたが与えてくださった御名によって彼らを守りました。わたしが保護したので、滅びの子のほかは、だれも滅びませんでした。聖書が実現するためです。

ヨハネ17:13 しかし、今、わたしはみもとに参ります。世にいる間に、これらのことを語るのは、わたしの喜びが彼らの内に満ちあふれるようになるためです。

ヨハネ17:14 わたしは彼らに御言葉を伝えましたが、世は彼らを憎みました。わたしが世に属していないように、彼らも世に属していないからです。

ヨハネ17:15 わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。

ヨハネ17:16 わたしが世に属していないように、彼らも世に属していないのです。

ヨハネ17:17 真理によって、彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です。

ヨハネ17:18 わたしを世にお遣わしになったように、わたしも彼らを世に遣わしました。

ヨハネ17:19 彼らのために、わたしは自分自身をささげます。彼らも、真理によってささげられた者となるためです。

ヨハネ17:20 また、彼らのためだけでなく、彼らの言葉によってわたしを信じる人々のためにも、お願いします。

ヨハネ17:21 父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります。

ヨハネ17:22 あなたがくださった栄光を、わたしは彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。

ヨハネ17:23 わたしが彼らの内におり、あなたがわたしの内におられるのは、彼らが完全に一つになるためです。こうして、あなたがわたしをお遣わしになったこと、また、わたしを愛しておられたように、彼らをも愛しておられたことを、世が知るようになります。

ヨハネ17:24 父よ、わたしに与えてくださった人々を、わたしのいる所に、共におらせてください。それは、天地創造の前からわたしを愛して、与えてくださったわたしの栄光を、彼らに見せるためです。

ヨハネ17:25 正しい父よ、世はあなたを知りませんが、わたしはあなたを知っており、この人々はあなたがわたしを遣わされたことを知っています。

ヨハネ17:26 わたしは御名を彼らに知らせました。また、これからも知らせます。わたしに対するあなたの愛が彼らの内にあり、わたしも彼らの内にいるようになるためです。”

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ18:1 こう話し終えると、イエスは弟子たちと一緒に、キドロン谷の向こうへ出て行かれた。そこには園があり、イエスは弟子たちとその中に入られた。

ヨハネ18:2 イエスを裏切ろうとしていたユダも、その場所を知っていた。イエスは、弟子たちと共に度々ここに集っておられたからである。

ヨハネ18:3 それでユダは、一隊の兵士と、祭司長たちやファリサイ派の人々の遣わした下役たちを引き連れて、そこにやって来た。松明やともし火や武器を手に入っていた。

ヨハネ18:4 イエスは御自分の身に起こることを何もかも知っておられ、進み出て、“だれを探しているのか?”と言われた。

ヨハネ18:5 彼らが“ナザレのイエスだ”と答えると、イエスは“わたしである”と言われた。イエスを裏切ろうとしていた

ユダも彼らと一緒にいた。

ヨハネ18:6 イエスが“わたしである”と言われたとき、彼らは後ずさりして、地に倒れた。

ヨハネ18:7 そこで、イエスが“だれを探しているのか”と重ねてお尋ねになると、彼らは“ナザレのイエスだ”と言った。

ヨハネ18:8 すると、イエスは言われた。“わたしである”と言ったのではないか。わたしを捜しているのなら、この人々は去らせなさい。”

ヨハネ18:9 それは、“あなたが与えてくださった人を、わたしは一人も失いませんでした”と言われたイエスの言葉が実現するためであった。

ヨハネ18:10 シモン・ペトロは剣を持っていたので、それを抜いて大祭司の手下に打ってかかり、その右の耳を切り落とした。手下の名はマルコスであった。

ヨハネ18:11 イエスはペトロに言われた。“剣をさやに納めなさい。父がお与えになった杯は飲むべきではないか。”

ヨハネ18:12 そこで一隊の兵士と千人隊長、およびユダヤ人の下役たちは、イエスを捕えて縛り、

ヨハネ18:13 まず、アンナスのところへ連れて行った。彼が、その年の大祭司カイアフアのしゅうとだったからである。

ヨハネ18:14 一人の人間が民の代わりに死ぬ方が好都合だと、ユダヤ人たちに助言したのは、このカイアフアであった。

ヨハネ18:15 シモン・パトロともう一人の弟子は、イエスに従った。この弟子は大祭司の知り合いだったので、イエスと一緒に大祭司のやしきの中庭に入ったが、

ヨハネ18:16 ペトロは門の外に立っていた。大祭司の知り合いである、そのもう一人の弟子は、出て来て門番の女に話し、ペトロを中に入れた。

ヨハネ18:17 門番の女中はペトロに言った。“あなたも、あの人の弟子の一人ではありませんか。”ペトロは、“違う”と言った。

ヨハネ18:18 僕や下役たちは、寒かったので炭火をおこし、そこに立って火にあたっていた。ペトロも彼らと一緒に立って、火にあたっていた。

ヨハネ18:19 大祭司はイエスに弟子のことや教えについて尋ねた。

ヨハネ18:20 イエスは答えられた。“わたしは、世に向かって公然と話した。わたしはいつも、ユダヤ人が皆集る会堂や神殿の境内で教えた。ひそかに話したことは何もない。

ヨハネ18:21 なぜ、わたしを尋問するのか。わたしが何を話したかは、それを聞いた人々に尋ねるがよい。その人々がわたしの話したことを知っている。”

ヨハネ18:22 イエスがこう言われると、そばにいた下役の一人が、“大祭司に向かって、そんな返事のしかたがあるか”と言って、イエスを平手で打った。

ヨハネ18:23 イエスは答えられた。“何が悪いことをわたしが言ったのなら、その悪いところを証明しなさい。正しいことを言ったのなら、なぜわたしを打つのか。”

ヨハネ18:24 アンナスは、イエスを縛ったまま、大祭司カイアフアのもとに送った。

ヨハネ18:25 シモン・ペトロは立って火にあたっていた。人々が、“お前もあの男の弟子の一人ではないのか”と言うと、ペトロは打ち消して、“違う”と言った。

ヨハネ18:26 大祭司の僕の一人で、ペトロに片方の耳を切り落とされた人の身内の者が言った。“園であの男と一緒にいるのを、わたしに見られたではないか。”

ヨハネ18:27 ペトロは、再び打ち消した。するとすぐ、鶏が鳴いた。

ヨハネ18:28 人々は、イエスをカイアフアのところから総督官邸に連れて行った。明け方であった。しかし、彼らは自分では官邸に入らなかった。汚れないで過越の食事をするためである。

ヨハネ18:29 そこで、ピラトが彼らのところへ出て来て、“どういう罪でこの男を訴えるのか”と言った。

ヨハネ18:30 彼らは答えて、“この男が悪いことをしていなかったら、あなたに引き渡しはしなかったでしょう”と言った。

ヨハネ18:31 ピラトが、“あなたたちが引き取って、自分たちの律法に従って裁け”と言うと、ユダヤ人たちは、“わたしたちには、人を死刑にする権限がありません”と言った。

ヨハネ18:32 それは御自分がどのような死を遂げるかを示そうとして、イエスの言われた言葉が実現するためであった。

ヨハネ18:33 そこで、ピラトはもう一度官邸に入り、イエスを呼び出して、“お前がユダヤ人の王なのか”と言った。

ヨハネ18:34 イエスはお答えになった。“あなたは自分の考えで、そう言うのですか。それとも、ほかの者がわたしについて、あなたにそう言ったのですか。”

ヨハネ18:35 ピラトは言い返した。“わたしはユダヤ人なのか。お前の同胞や祭司長たちが、お前をわたしに引き渡したのだ。いったい何をしたのか。”

ヨハネ18:36 イエスはお答えになった。“わたしの国は、この世には属していない。もし、わたしの国がこの世に属していれば、わたしがユダヤ人に引き渡されないように、部下が戦ったことだろう。しかし、実際、わたしの国はこの世には属していない。”

ヨハネ18:37 そこでピラトが、“それでは、やはり王なのか”と言うと、イエスはお答えになった。“わたしが王だとは、あなたが言っていることです。わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く。”

ヨハネ18:38 ピラトは言った。“真理とは何か。”ピラトは、こう言ってからもう一度、ユダヤ人たちの前に出て来て言った。“わたしはあの男に何の罪も見いだせない。”

ヨハネ18:39 ところで、過越祭にはだれか一人をあなたたちに釈放するのが慣例になっている。あのユダヤ人の王を釈放してほしいか。”

ヨハネ18:40 すると、彼らは“その男ではない。バラバを”と大声で言い返した。バラバは強盗であった。

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ19:1 そこで、ピラトはイエスを捕らえ、鞭で打たせた。

ヨハネ19:2 兵士たちは茨で冠を編んでイエスの頭に載せ、紫の服をまとわせ、

ヨハネ19:3 そばにやって来ては、“ユダヤ人の王、万歳”と言って、平手で打った。

ヨハネ19:4 ピラトはまた出て来て、言った。“見よ、あの男をあなたたちのところへ引き出そう。そうすれば、わたしが彼に何の罪も見いだせないわけが分かるだろう。”

ヨハネ19:5 イエスは茨の冠をかぶり、紫の服を着けて出て来られた。ピラトは、“見よ、この男だ”と言った。

ヨハネ19:6 祭司長たちや下役たちは、イエスを見ると、“十字架につけろ。十字架につけろ”と叫んだ。ピラトは言った。“あなたたちが引き取って、十字架につけるがよい。わたしはこの男に罪を見いださせない。”

ヨハネ19:7 ユダヤ人たちは答えた。“わたしたちには律法があります。律法によれば、この男は死罪に当たります。神の子と自称したからです。”

ヨハネ19:8 ピラトは、この言葉を聞いてますます恐れ、

ヨハネ19:9 再び総督官邸の中に入って、“お前はどこから来たのか”とイエスに言った。しかし、イエスは答えようとされなかった。

ヨハネ19:10 そこで、ピラトは言った。“わたしに答えないのか。お前を釈放する権限も、十字架につける権限も、このわたしにあることを知らないのか。”

ヨハネ19:11 イエスは答えられた。“神から与えられていなければ、わたしに対して何の権限もないはずだ。だから、わたしをあなたに引き渡した者の罪はもっと重い。”

ヨハネ19:12 そこで、ピラトはイエスを釈放しようと努めた。しかし、ユダヤ人たちは叫んだ。もし、この男を釈放するのなら、あなたは皇帝の友ではない。王と自称する者は皆、皇帝に背いています。”

ヨハネ19:13 ピラトは、これらの言葉を聞くと、イエスを外に連れ出し、ヘブライ語でガバタ、すなわち“敷石”という場所で、裁判の席に着かせた。

ヨハネ19:14 それは過越祭の準備の日の、正午ごろであった。ピラトがユダヤ人たちに、“見よ、あなたたちの王だ”と言うと、

ヨハネ19:15 彼らは叫んだ。“殺せ、殺せ、十字架につけろ。”ピラトが、“あなたたちの王をわたしが十字架につけるのか”と言うと、祭司長たちは、“わたしたちには、皇帝のほかには王はありません”と答えた。

ヨハネ19:16 そこで、ピラトは、十字架につけるために、イエスを彼らに引き渡した。こうして、彼らはイエスを引き取った。

ヨハネ19:17 イエスは、自ら十字架を背負い、いわゆる“されこうべの場所”、すなわちヘブライ語でゴルゴタという所へ向かわれた。

ヨハネ19:18 そこで、彼らはイエスを十字架につけた。また、イエスと一緒にほかの二人をも、イエスを真ん中にして両側に、十字架をつけた。

ヨハネ19:19 ピラトは罪状書きを書いて、十字架の上に掛けた。それには、“ナザレのイエス、ユダヤ人の王”と書いてあった。

ヨハネ19:20 イエスが十字架につけられた場所に都に近かったので、多くのユダヤ人がその罪状書きを読んだ。そ

れは、ヘブライ語、ラテン語、ギリシア語で書かれていた。

ヨハネ19:21 ユダヤ人の祭司長たちがピラトに、「ユダヤ人の王」と書かず、「この男はユダヤ人の王」と自称したと書いてください」と言った。

ヨハネ19:22 しかし、ピラトは、「わたしが書いたものは、書いたままにしておけ」と答えた。

ヨハネ19:23 兵士たちは、イエスを十字架につけてから、その服を取り、四つに分け、各自に一つずつ渡るようにした。下着も取って見たが、それには縫い目がなく、上から下まで一枚織りであった。

ヨハネ19:24 そこで、「これは裂かないでだれのものになるか、くじ引きで決めよう」と話し合った。それは、「彼らはわたしの服を分け合い、わたしの衣服のことでくじを引いた」という聖書の言葉が実現するためであった。兵士たちはこのとおりにしたのである。

ヨハネ19:25 イエスの十字架のそばには、その母と母の姉妹、クロバの妻マリアとマグダラのマリアとが立っていた。

ヨハネ19:26 イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」と言われた。

ヨハネ19:27 それから弟子に言われた。「見なさい。あなたの母です。」そのときから、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。

ヨハネ19:28 この後、イエスは、すべてのことが今や成し遂げられたのを知り、「渴く」と言われた。こうして、聖書の言葉が実現した。

ヨハネ19:29 そこには、酸いぶどう酒を満した器が置いてあった。人々は、このぶどう酒をいっぱい含ませた海綿をヒソブに付け、イエスの口もとに差し出した。

ヨハネ19:30 イエスは、このぶどう酒を受けると、「成し遂げられた」と言い、頭を垂れて行きを引き取られた。

ヨハネ19:31 その日は準備の日で、翌日は特別な安息日であったので、ユダヤ人たちは、安息日に遺体を十字架の上に残しておかないために、足を折って取り降ろすように、ピラトに願い出た。

ヨハネ19:32 そこで、兵士たちが来てイエスと一緒に十字架につけられた最初の男と、もう一人の男との足を折った。

ヨハネ19:33 イエスのところに来てみると、既に死んでおられたので、その足は折らなかつた。

ヨハネ19:34 しかし、兵士の一人が槍でイエスのわき腹を刺した。すると、すぐ血と水とが流れ出た。

ヨハネ19:35 それを目撃した者が証しており、その証しは真実である。その者は、あなたがたにも信じさせるために、自分が真実を語っていることを知っている。

ヨハネ19:36 これらのことが起こったのは、「その骨は一つも砕かれない」という聖書の言葉が実現するためであった。

ヨハネ19:37 また、聖書の別の所に、「彼らは、自分たちの突き刺した者を見る」とも書いて。

ヨハネ19:38 その後、イエスの弟子でありながら、ユダヤ人たちを恐れて、そのことをかくしていたアリマタヤ出身のヨセフが、イエスの遺体を取り降ろしたいと、ピラトに願い出た。ピラトが許したので、ヨセフは行って遺体を取り降ろした。

ヨハネ19:39 そこへ、かつてある世、イエスのもとに来たことのあるニコデモも、没薬と沈香を混ぜた物を百リトラばかり持って来た。

ヨハネ19:40 彼らはイエスの遺体を受け取り、ユダヤ人の埋葬の習慣に従い、香料を添えて亜麻布で包んだ。

ヨハネ19:41 イエスが十字架につけられた所には園あり、そこには、だれもまだ葬られたことのない新しい墓があった。

ヨハネ19:42 その日はユダヤ人の準備の日であり、この墓が近かったので、そこにイエスを納めた。

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ20:1 週の初めの日、朝は役、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った。そして、墓から石が取りのけであるのを見た。

ヨハネ20:2 そこで、シモン・ペトロのところへ、また、イエスが愛しておられたもう一人の弟子のところへ走って行って彼らに告げた。「主が墓から取り去られました。どこに置かれているのか、わたしたちには分かりません。」

ヨハネ20:3 そこで、ペトロとそのもう一人の弟子は、外に出て墓へ行った。

ヨハネ20:4 二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子の方が、ペトロより速く走って、先に墓に着いた。

ヨハネ20:5 身をかがめて中をのぞくと、亜麻布が置いてあった。しかし、彼らは中には入らなかつた。

ヨハネ20:6 続いて、シモン・ペトロも着いた。彼は墓に入り、亜麻布が於てあるのを見た。

ヨハネ20:7 イエスの頭を包んでいた覆いは、亜麻布と同じ所には置いてなく、離れた所に丸めてあった。

ヨハネ20:8 それから、先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来て、見て、信じた。

ヨハネ20:9 イエスは必ず死者の中から復活されることになっているという聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかったのである。

ヨハネ20:10 それから、この弟子たちは家に帰って行った。

ヨハネ20:11 マリアは墓の外に立って泣いていた。泣きながら身をかがめて墓の中を見ると、

ヨハネ20:12 イエスの遺体の置いてあった所に、白い衣を着た二人の天使が見えた。一人は頭の方に、もう一人は足の方に座っていた。

ヨハネ20:13 天使たちが、「婦人よ、なぜ泣いているのか」と言うと、マリアは言った。「わたしの主が取り去られました。どこに置かれているのか、わたしには分かりません。」

ヨハネ20:14 こう言いながら後ろを振り向くと、イエスの立っておられるのが見えた。しかし、それがイエスだとは分からなかった。

ヨハネ20:15 イエスは言われた。「婦人よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。」マリアは、園丁だと思って言った。「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教えてください。わたしが、あの方を引き取ります。」

ヨハネ20:16 イエスが、「マリア」と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で、「ラボニ」と言った。「先生」という意味である。

ヨハネ20:17 イエスは言われた。「わたしにすがりつくのはよしなさい。まだ父のもとへ上っていないのだから。わたしの兄弟たちのところへ行って、こう言いなさい。‘わたしの父であり、あなたがたの父である方、また、わたしの神であり、あなたがたの神である方のところへわたしは上る’**◆**

**20,17-1,わたしは上る’**と。”

ヨハネ20:18 マグダラのマリアは弟子たちのところへ行って、「わたしは主を見ました」と接げ、また、主から言われたことを伝えた。

ヨハネ20:19 その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。

ヨハネ20:20 そう言って、手とわき腹とお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。

ヨハネ20:21 イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように、父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」

ヨハネ20:22 そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。

ヨハネ20:23 だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。”

ヨハネ20:24 十二人の一人でディディモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。

ヨハネ20:25 そこで、ほかの弟子たちが、「わたしたちは主を見た」と言うと、トマスは言った。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。”

ヨハネ20:26 さて八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいた。戸にはみな鍵が掛けてあったのに、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。

ヨハネ20:27 それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。”

ヨハネ20:28 トマスは答えて、「わたしの主、わたしの神よ」と言った。

ヨハネ20:29 イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。”

ヨハネ20:30 このほかにも、イエスは弟子たちの前で、多くのしるしをなさったが、それはこの書物に書かれていない。

ヨハネ20:31 これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。

ヨハネ\*\*\*:  
ヨハネ\*\*\*:  
ヨハネ\*\*\*:  
ヨハネ\*\*\*:  
ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ21:1 その後、イエスはティベリアス湖畔で、また弟子たちに御自身を現された。その次第はこうである。

ヨハネ21:2 シモン・ペトロ、ディディモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナ出身のナタナエル、ゼベダイの子たち、それに、ほかの二人の弟子が一緒にいた。

ヨハネ21:3 シモン・ペトロが、「わたしは漁に行く」と言うと、彼らは、「わたしたちも一緒に行こう」と言った。彼らは出て行って、舟に乗り込んだ。しかし、その夜は何もとれなかった。

ヨハネ21:4 既に夜が明けたところ、イエスが岸に立っておられた。だが、弟子たちは、それがイエスだとは分からなかった。

ヨハネ21:5 イエスが、「子たちよ、何か食べる物があるか」と言われると、彼らは、「ありません」と答えた。

ヨハネ21:6 イエスは言われた。「舟の右側に網を打ちなさい。そうすればとれるはずだ。」そこで、網を打つてみると、魚があまり多くて、もはや網を引き上げることができなかった。

ヨハネ21:7 イエスの愛しておられたあの弟子がペトロに、「主だ」と言った。シモン・ペトロは「主だ」と聞くと、裸同然だったので、上着をまとって湖に飛び込んだ。

ヨハネ21:8 ほかの弟子たちは魚のかかった網を引いて、舟で戻って来た。陸から二百ペキスばかりしか離れていなかったのである。

ヨハネ21:9 さて、陸に上がってみると、炭火がおこしてあった。その上に魚がのせてあり、パンもあった。

ヨハネ21:10 イエスが、「今とった魚を何匹か持って来なさい」と言われた。

ヨハネ21:11 シモン・ペトロが舟に乗り込んで網を陸に引き上げると、百五十三匹もの大きな魚でいっぱいであった。それほど多くとれたのに、網は破れていなかった。

ヨハネ21:12 イエスは、「さあ、来て、朝の食事をしなさい」と言われた。弟子たちはだれも、「あなたはどなたですか」と問いただそうとはしなかった。主であることを知っていたからである。

ヨハネ21:13 イエスは来て、パンを取って弟子たちに与えられた。魚も同じようにされた。

ヨハネ21:14 イエスが死者の中から復活した後、弟子たちに現れたのは、これでもう三度目である。

ヨハネ21:15 食事が終わると、イエスはシモン・ペトロに、「ヨハネの子シモン、この人たち以上にわたしを愛しているか」と言われた。ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの小羊を飼いなさい」と言われた。

ヨハネ21:16 二度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロが、「はい、主よ、わづがあなたを愛していることは、あなたがたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの羊の世話をしなさい」と言われた。

ヨハネ21:17 三度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロは、イエスが三度目も、「わたしを愛しているか」と言われたので、悲しくなった。そして言った。「主よ、あなたは何もかもご存じです。わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知って◆

21,17-1,あなたはよく知っておられます。」イエスは言われた。「わたしの羊を飼いなさい。」

ヨハネ21:18 はっきり言うておく。あなたは、若いときは、自分で帯を締めて、行きたいところへ行っていた。しかし、年をとると、両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる。”

ヨハネ21:19 ペトロがどのような死に方で、神の栄光を現すようになるかを示そうとして、イエスはこう言われたのである。このように話してから、ペトロに、「わたしに従いなさい」と言われた。

ヨハネ21:20 ペトロが振り向くと、イエスの愛しておられた弟子がついて来るのが見えた。この弟子は、あの夕食のとき、イエスの胸もとに寄りかかったまま、「主よ、裏切るのはだれですか」と言った人である。

ヨハネ21:21 ペトロは彼を見て、「主よ、この人はどうなるのでしょうか」と言った。

ヨハネ21:22 イエスは言われた。「わたしの来るときまで彼が活着していることを、わたしが望んだとしても、あなたに何の関係があるか。あなたは、わたしに従いなさい。”

ヨハネ21:23 それで、この弟子は死なないというわさが兄弟たちの間に広まった。しかし、イエスは、彼は死なないと言われたのではない。ただ、「わたしの来るときまで彼が活着していることを、わたしが望んだとしても、あなたに何の関係があるか」と言われたのである。

ヨハネ21:24 これらのことについて証しをし、それを書いたのは、この弟子である。わたしたちは、彼の証しが真実であることを知っている。

ヨハネ21:25 イエスのなさったことは、このほかにも、まだたくさんある。わたしは思う。その一つ一つを書くならば、世界もその書かれた書物を取めきれないであろう。

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ\*\*\*:

ヨハネ**5:4** 彼らは、水が動くのを待っていた。それは、主の使いがときどき池に降りて来て、水が動くことがあり、水が動いたとき、真っ先に水に入る者は、どんな病気にかかっているにも、いやされたからである。